

ウォーターフロントから海洋空間まで、人間が住み・働き・憩う環境をデザインする。

No.  
107  
海建

# カイケン magazine

年報  
号

研究室説明会の日程  
研究室紹介  
博士論文・修士論文・卒業研究  
就職状況

海洋建築工学科 創設40周年  
40  
YEARS  
ANNIVERSARY

## 目次

平成30年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当	2	教員研究業績・研究室活動業績（空間利用系）	17
平成30年度 学生受賞	3	教員研究業績・研究室活動業績（資源・エネルギー開発系）	24
学科イベントカレンダー	3	教員研究業績・研究室活動業績（環境保全系）	25
研究室紹介（空間利用系）	4	主な学生の活躍	27
研究室紹介（資源・エネルギー開発系）	12	就職情報	28
研究室紹介（環境保全系）	14	NEWS & TOPICS	30

## ●平成30年度 研究室説明会日程

時間 日・教室	1・2時限			3時限		4時限	
	9:50~ 10:30	10:40~ 11:20	11:30~ 12:10	13:20~ 14:00	14:10~ 14:50	15:00~ 15:40	15:50~ 16:30
4月4日(水) 1441教室	小林(直) [研究室]	桜井・寺口 [研究室]	佐藤 [研究室]	親水工学 [研究室]	山本 [研究室]		
4月5日(木) 1441教室	近藤 [研究室]	北嶋 [研究室]	福井 [研究室]	岡本 [研究室]	大塚 [研究室]	居駒・恵藤・相田 [研究室]	小林・野志 [研究室]

## 平成30年度 教室主任・クラス担任

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
教室主任	北嶋 圭二	1361	047-469-5385	kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp
学部1年	居駒 知樹	1342	047-469-1342	ikoma.tomoki@nihon-u.ac.jp
	相田 康洋	1342		
学部2年	小林 直明	1345	047-469-8362	kobayashi.naoaki@nihon-u.ac.jp
	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
学部3年	佐藤 信治	1352	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
	菅原 遼	1346	047-469-5424	sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp
学部4年	近藤 典夫	1353	047-469-5423	kondo.norio@nihon-u.ac.jp
	野志 保仁	1335	047-469-5281	noshi.yasuhito@nihon-u.ac.jp
	岡本 強一	1365	047-469-5568	okamoto.kyoichi@nihon-u.ac.jp
大学院	桜井 慎一	1357	047-469-5526	sakurai@ocean.cst.nihon-u.ac.jp

## 平成30年度 学科校務担当

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
就職指導	福井 剛	1366	047-469-5527	fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp
	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
学生相談	大塚 文和	1334	047-469-5480	otsuka.fumikazu@nihon-u.ac.jp
留学生担当	近藤 典夫	1353	047-469-5423	kondo.norio@nihon-u.ac.jp

学科  
事務室

〒274-8501 千葉県船橋市7-24-1  
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室  
TEL: 047-469-5420 FAX: 047-467-9446

岡崎 敏美  
倉井 朋美  
小川マリア・リッチー

okazaki@ocean.cst.nihon-u.ac.jp  
kurai.tomomi@nihon-u.ac.jp  
ogawa.maria@nihon-u.ac.jp



## 学生受賞

### ●優等賞

黄 起範 (佐藤研究室)  
藤波由輝 (福井研究室)  
八木淳之介 (桜井・寺口研究室)  
草川和弘 (北嶋研究室)

### ●加藤賞

沖野貴久：剛性偏心を有する滑り基礎構造物の地震応答性状に関する研究  
橋本佳樹：密度および形状の異なる材料により形成される海浜地形の比較に関する研究  
宮下奈々恵：離島港湾における係留船舶の動揺と係留索張力の応答特性に関する基礎的研究

### ●海建優秀賞

黄 起範：大洋の湊舟城  
唐崎雄亮：鉄道線路が津波避難に及ぼす影響に関する研究 - 全国沿岸の鉄道事業者が行っている対策の現状 -

### ●桜建賞

永野恭史・藤田勇汰：折返しブレースの座屈拘束メカニズムに関する研究  
土橋大輔：米国における水上住居の法制度整備の動向に関する調査研究 - ワシントン州シアトル市およびカリフォルニア州サウスリート市を対象として -  
目野玄也：一宮海岸における養浜効果の検証に関する研究

### ●海建賞

伊佐野未季・澤村晴香：鎌倉市由比ヶ浜における新規津波避難施設の配置計画に関する基礎的研究  
山口兼右：東京湾における生態系ネットワークに関する基礎的研究  
中村隆浩：循環型浄化システムにおける微生物活性剤の投入時刻に対する浄化性能比較  
藤山翔己：アグリカルチャー・リサーチコンプレックスセンター  
櫻井郁斗：円筒形タンク内の液面動揺に関する非線形数値解析  
小林将斗・斉田健志・藤浪由揮・吉崎駿之介：PC梁のせん断終局強度推定式の適用範囲拡大に関する実験的研究  
福島巧理：プレジャーボートの利用実態から見る利用率向上に関する調査研究

### ●桜工賞

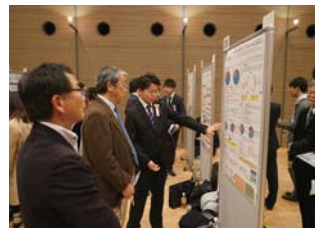
重田秀之：国家公務員採用総合職試験の合格を称えて  
高村皓輝：オープンキャンパスなどの学科広報活動への多大な貢献  
中村隆浩：卒業アルバム編集委員としての貢献

### ●平成 29 年度理工学部学術講演会優秀発表賞受賞 (口頭発表部門)

沖野貴久：テーパー付き滑り基礎構造物の応答性状に関する研究 - その4 時刻歴応答解析による応答性状の検討 -  
歌田航己：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究 - その1 制震補強設計法の概要と各階のダンパー量の算定方法 -  
横澤 輝：多数回繰返し載荷を受ける RC 構造物の十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究 - その3 実験結果と検討 -  
土橋大輔：米国における水上住居の現状と法規制に関する調査研究 - その1 カリフォルニア州マリナー郡を対象として -  
横田拓也：セルオートマトン法による海岸砂丘での blowout の形成予測  
守川 耀：近接2角柱のギャロッピング解析

### ●平成 29 年度理工学部学術講演会優秀発表賞受賞 (ポスター発表部門)

宮嶋悠輔：秋田県小坂町まちづくり計画 - その2 旧十和田中学校再編計画 -  
千葉雄介：中国河北省唐山市曹妃甸区における観光マリーナの設計 - 観光ビジネスを取り入れた複合施設の提案 -  
中村圭佑：未来の原風景 - 居久根の再生に伴う住居施設設計 -  
川原康之介：東京オリンピックに向けたラグジュアリー・ヨット誘致の可能性に関する調査研究  
小林圭吾：サーフィンを活用した地域振興に関する基礎的研究 - 千葉県長生郡一宮町を対象地として -



学術講演会



修士論文審査会

## 学科イベントカレンダー

### 2018 年

4月6日(金)	新入生歓迎式	9月上旬	海洋実習Ⅰ (1年生)
5月上旬	学科留学生交流会	10月3日(水)	理工学部スポーツ大会
5月中旬	新入生学科オリエンテーション	11月2日(金)	桜理祭 (~ 11月4日(日))
7月下旬	「海と建築」ポスター発表 (1年生)	12月1日(金)	理工学部学術講演会
8月上旬	海洋実習Ⅱ (2年生)	3月上旬~下旬	海外研修旅行

### 2019 年

1月上旬	博士論文発表会	3月初旬	卒業発表
2月上旬	卒業研究発表会	3月25日(月)	卒業式 (学位記伝達式)
2月下旬	修士論文審査会	-	-

## 計画分野

空間利用系

## 海洋建築・建築デザイン研究室

1345 室

## Teaching Staff

教授  
小林 直明

## ●研究室紹介

研究室は、「建築を通して社会貢献する」を理念とし、設計提案または研究活動の成果を実際のプロジェクトに反映できるようにしています。さらに研究室というデザインは、単なる「かたち」ではなく全て機能があることを基にしています。

海洋建築工学分野自体は建築と土木と、またその他の技術分野の融合が重要である認識しています。さらに建築は現在まで培ってきた技術と異分野の技術の融合させることで更なる発展があると考えます。現在は、周辺のまちづくり、自然の環境等を考慮して設計しますが、今後は建築自体が異分野の機能と結び付けなければならないのではと考えます。たとえば、単なる環境装置の設置を超えて周辺の自然と連携する、市街地多種の交通システムと連携を図る、ビッグデータ・AI・IOT・ロボットのインダストリー 4.0 技術とのさらなる融合等が考えられます。海洋建築であるからこそ無限の可能性と異分野との連携のポテンシャルが高いことを認識したいと思います。

新しいものを開発するイノベーションを起こす場合、単独分野の既往の技術に縛られることなく異分野技術との融合を図ることで達成されるケースが多いことから、既往の技術の集積でなく、常にチャレンジ精神で新しい物事に向き合う姿勢が重要であると考えます。

また、現在行なわれている 3.11 復興において、建築と土木の両分野の融合でもある海洋建築工学分野は、自然と防災、同時に産業と共存できる将来の国土づくりのリーダーシップを担う使命があると考えます。研究テーマは以下となります。

## ●卒業設計・研究のテーマ

## 【建築・海洋建築・まちづくり計画デザイン】

- 1) 建築と土木を融合した海洋建築デザイン・サステナブル海洋建築デザイン
- 2) 人の知的生産性（プロダクティビティ）と行動（アクティビティ）を高める建築デザイン
- 3) 新交通システムと連携する建築デザイン



人の知的生産性（プロダクティビティ）と行動（アクティビティ）を高める建築デザイン：横河電機金沢研究所



歴史的建造物の動態保存（使いながら保存する）と歴史的建造物のサステナブルデザイン：自由学園園明日館



建築と土木を融合したサステナブル海洋建築デザイン 気仙沼復興提案

- 4) 3.11 復興計画デザイン（津波&放射線）・東南海トラフ地震による津波被災想定地のまちづくりと建築デザイン
- 5) 歴史的建造物の動態保存（使いながら保存する）と歴史的建造物のサステナブルデザイン
- 6) 既存ストックを利用した建築デザイン
- 7) 海洋利用のロバストネス建築デザイン

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、建築設計の基本的知識およびデザイン手法の指導と、自分の建築作品を相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上も課題に取り組んでまいります。

## ●着手条件

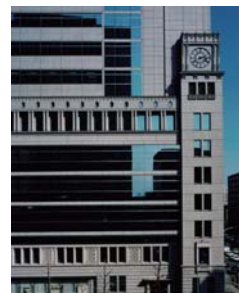
建築大好きな学生。デザイン（建築だけに捉われない）大好きな学生。デザイン演習の授業を受けて楽しいと思った学生がゼミ着手条件となりますので、基本的には卒研は卒業設計が必須となります。

## ●2017 年度 卒業設計

- 浅野 健：フローティングクリスタル 〜ツバルの住民を移住する計画〜  
 岡留 想：人を想う建築 〜被災者と仮設住宅の未来〜  
 佐藤未来：未来の架け橋  
 島田 将：首都海上に盆を敷く〜東京湾アクアライン IR 施設誘致計画〜  
 藤山翔己：アグリカルチャー・リサーチコンプレックスセンター  
 〜築地市場跡地計画として食文化発信施設群計画〜  
 中村圭佑：解ける境界が織り成す共界  
 東角井雅人：SMART MOBILITY 〜パーソナルモビリティと建築の複合〜  
 古川拳斗：水上飛行機を利用した地方創生プロジェクト 〜過去に軍用水上機基地があった霞ヶ浦美浦村を例として〜  
 松田瑠奈：杜の駅 〜原宿駅解体から考える新たなコネクションの提案〜  
 山元寛太：次世代エネルギー拠点へ 〜メタンハイドレートによる試験的海上都市  
 星野智美：芸術発展都市 ART を通したコミュニケーション

## ●2017 年度 卒業論文

- 秋村良人：アーキエイドの可能性  
 加藤柚衣：文化財建造物のサステナブルエネルギー利用  
 〜重要文化財：自由学園園明日館〜



既存ストックを利用した建築デザイン 大手町野村ビル

## Teaching Staff



教授  
桜井 慎一



助手  
寺口 敬秀

## ●研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室のモットーにしています。

- (1) 社会人として最も大切なのは時間を守り、有効に使うことです。ゼミで最初に学ぶのは「時間の管理」です。時間を把握し、主体的に管理し、破綻のないスケジューリングを計画・実践する技術を身につけます。
- (2) ゼミ論や卒研のテーマは、自分の好きなことで挑戦できます。問題だと感じていること、将来、社会で必要になってくることを考え、自らが提案します。計画や企画・開発の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「ニーズを掘り起こす能力」が必要だからです。
- (3) どんなに優れた研究でも、人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。自分の言葉で、わかりやすく、決められた時間内で、興味を引き飽きさせない「プレゼンテーション力」を養います。

## ●ゼミナール活動

前期は、時間管理や就職等に関する座学と、三番瀬やWFの見学会を実施します。夏季休暇以降～12月までの約半年間はゼミナール研究論文を作成し、成果は学会等で発表し、就職活動にも役立ちます。

## ●過去の卒業研究およびゼミナールのテーマ例

## (A) ウォーターフロントを快適利用する環境整備

- ① ウォーターフロントの住宅を選ぶ住民の居住意識
- ② ビーチクラブによる海岸環境保護と海洋教育
- ③ ペット専用ビーチの整備と運営手法
- ④ 高齢者に配慮した親水テラスの整備方法
- ⑤ 水中文化遺産を利用したダイビングスポットの整備

## (B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン

- ⑥ 水辺景観を向上させる保存船舶の展示方法
- ⑦ 城郭水堀の保存整備と有効利用
- ⑧ 水辺景観を引き立たせる防護柵のデザイン
- ⑨ 水中ライトアップの整備方法

## (C) ウォーターフロントの開発と有効利用

- ⑩ ウォーターフロントにおける産業観光資源の発掘
- ⑪ 遊休化した地方漁港空間の有効活用方策
- ⑫ クルーズ船の寄港地に適する港の選定
- ⑬ 臨海軍事要塞跡地の施設保存と公園化整備
- ⑭ 洋上風力発電施設設置に対する漁業者の認識と評価



2017年のゼミ旅行（広島・水上飛行機見学）

## (D) ウォーターフロントの減災対策

- ⑮ 津波避難誘導標識の効果的な設置方策
- ⑯ 津波記念碑の市民認知継承に関する研究
- ⑰ 船舶を用いた帰宅困難者輸送の検討
- ⑱ 海水浴場における津波避難計画

## ●2018年度の主な行事予定

- ① ゼミ生歓迎会（5月）、②三番瀬体験散策会（6月）、③WF見学会（7月）、④夏季研修旅行・東北（9月）、⑤学術講演会での論文発表（12月）、⑥ゼミナール研究論文発表会（12月）、⑦桜井研卒発表会（2月）

## ●ゼミナールおよび卒業研究の着手条件

説明会参加者の中から個人面談を行います。ウォーターフロント計画Ⅰ、Ⅱ、建築法規、海洋政策と関連法規等の科目を履修していることが望ましいです。大学院進学希望の学生は、面談時に教えてください。

## ●2017年度 修士論文

渡邊 亮：津波ハザードマップの表記統一と利用促進の課題

## ●2017年度 卒業論文

- 市川智裕：フィッシャリーナおよび海の駅の指定に伴う漁港空間の活用状況
- 唐崎雄亮：鉄道路線が津波被害に及ぼす影響
- 國井 樹：水上飛行機の就航地に適する漁港の選定
- 倉田直樹：津波避難ビルの建築を誘導する条例
- 小林駿邦：津波避難誘導標識の効果的な設置方法
- 関口潤耶：景観に配慮した防潮堤の整備方法
- 豊田秀樹：津波シェルターの設置場所と数の試算
- 西野司高：東日本大震災以降に建立された津波教訓碑の特性
- 丸山敬之：国内のクルーズ事業拡大に向けた課題
- 八木淳之介：「残したい日本の音風景100選」の保存に向けた取り組み
- 安野 陸：大規模災害時における市町村間の相互支援連携に向けた取り組み

## ●2017年度 ゼミ論文

- 海老原碧：学校教育における水難事故予防策
- 小坂翔平：横浜での歴史的港湾施設の有効活用法
- サカイ花：海域公園地区の制度変更が及ぼした影響
- 中田佳宏：海上ウォーターパークの整備実態と効果
- 藤田優美：Instagramを活用した東京湾の夜景魅力度調査
- 村岡麗乃：WFの特性を活かしたイベントの現状



## 計画分野

空間利用系

## 建築デザイン・計画研究室

1352 室

## Teaching Staff

専任講師  
佐藤 信治

## ●研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい!という学生・院生で構成されています。まずは建築やデザインが好き!であることが大切です。建築のデザインはある意味では大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒にワイワイ・ガヤガヤと学びたいと思います。

また建築をデザインする前段階としては建築を計画するということが重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで(含、施工)の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、大学院、デザイン事務所やゼネコン設計部への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年100%を維持しています。

## ●卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計〉と〈計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計テーマと計画テーマとに分かれて実施しますが、その過程では、今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

## 〈設計テーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン
- ・3Dプリンターを活用した自動建築システムの構築
- ・「MR (Mixed Reality)」を活用したデザイン

## 〈計画テーマ〉

- ・水族館に関する建築計画の研究

- ・水環境下における建築の空間デザインの研究
- ・社の空間解析に関する研究

## 〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して東北各地の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。昨年は、秋田県小坂町とコラボレーションしました。合宿期間中においては、自ら調べ、様々な建築物をデザインし、最終的には小坂町町長や同和鉱業事務所のみなさんの前でデザイン発表会を行いました(写真1)。

また、2011年度より中国北京の中国建築科学研究院と共同で海外インターンシップを開催しており、2017年は唐山市においてリゾート開発計画をデザイン(写真2)し、地方政府にプレゼンテーションを行ってきました。

さらに中国国内の黒竜江省哈爾濱市においては、歴史的景観地区において歴史のあるホテルの改修新築計画が進行中です(写真3)。

## ●ゼミナールのテーマ

設計・計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行い、ゼミナールについては、学期末にその成果の発表会を実施します。

## ●着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。ただし計画・研究分野の希望者はこの限りではありません。

●卒業設計 黄 起範:「塵海の廻都」干潟の機能を取り入れた浮体式浄化施設の設計(写真4)

●修士設計 重田秀之:「新東京国際展示場計画-築地市場跡地を活用したMICE施設の設計-」東京湾におけるリゾートホテルを核とした提案(写真5)



写真1



写真4



写真2



写真5



写真3

## Teaching Staff

助教  
菅原 遼特任教授  
畔柳 昭雄

## ●研究室紹介

本研究室では、「水と人とのかかわり」を基本テーマとして、水と都市、水と建築、水と空間、水と生活などについて考究することを目的としています。

そのため、「歩く・見る・考える・伝える」を重視し、建築を見て、都市を感じ、水辺や海を知り、地域を理解することから始めます。また、素養を身に付けるための関連の文献紹介や研究解説などを行い、理解増進や興味・関心を深められるようにし、研究に求められる協調性や積極性、独創性及び思考力を養うためのワークショップも行います。さらに、地域と連携した実際の研究活動や設計活動などを通して、ものづくりに対する多角的な考え方を養い、将来、社会において活躍できる人材の育成を行います。また、OB・OGによる就職相談や大学院進学についても支援しています。

## ●卒業研究のテーマ

## 【人間・活動・環境系】

- ・人と水辺空間との関係性の研究
- ・生活用水の利用と行動・評価に関する研究
- ・アジア諸都市の水資源・水環境に関する研究
- ・水辺の市民開放施策に関する研究

## 【建築・都市・防災系】

- ・時代や場所を考慮した親水施設の特長に関する研究
- ・建築が持つ「動的要因」に関する研究
- ・洪水常襲地域における建築と地域対応に関する研究
- ・洪水・津波災害リスク対応と地域政策に関する研究

## 【デザイン系】

- ・仮設・移動性を考慮した建築物のデザイン
- ・浮体式海洋建築物のデザイン
- ・都市熱緩和のための新たな親水空間のデザイン
- ・漁港漁村活性化のための地域デザイン

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、都市、建築、地域計画に対する思考力や表現力の養成を図ります。具体的には、CADやIllustrator、Photoshopなどの表現技術をわかり易

く丁寧に指導し、同時にデザインビルドをお台場海浜公園や地方の海浜で行います。また、文献紹介や研究解説、学術講演会発表などを通して、卒業論文の執筆に向けた自身の興味・関心事の深化を図ります。

## ●着手条件

研究室説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください。(デザイン系を志望する学生は、設計製図で制作した作品を必ず持参してください)。希望者は、卒業研究着手や就職活動に支障のないように単位を履修していることのほか、2年次までの設計製図の単位を取得済であることを希望します。また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。

## ●2017年度卒業論文

- 新井侑子：江戸・東京期における料亭と水辺空間との係わりに関する研究
- 大槻 愛：金魚養殖業に見る地域特性と水との関連性に関する調査研究
- 土橋大輔：米国における水上住居の法制度整備の動向に関する調査研究
- 芳西優汰：漁港背後地の土地利用の変遷に関する調査研究

## ●2017年度修士論文

- 加藤千尋：東京築港構想の系譜から捉えた東京海上都市構想に関する研究
- 小海 諄：児童の自然とのふれあいからみた自然認識に関する研究

詳細な活動情報についてはホームページ(左)もしくはFacebook(右)をご覧ください。





## Teaching Staff

専任講師  
山本 和清

## ●研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT（On the Job Training）に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「ハンザ（旧アクセスディンギー）」という誰もが（小さい子供から高齢者・障がい者までも含む）海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。

「たてやま海まちフェスタ」（千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置づけた南房総地区における大々的なイベント）、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」（毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント）、「船橋港まつり」（毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業が中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり）では、それぞれの会場の海域を使用してハンザの体験乗船会を実施し（写真1・2）、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。この



写真1 「たてやま海まちフェスタ」ハンザ体験乗船風景



写真2 「船橋港まつり」アクセスディンギー体験乗船風景

様な活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・障がい者にも優しいまちづくりについて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

## ●卒業研究のテーマ

## 【地域・都市活性化計画系】

- 1) みなと町活性化方策と“環境・観光・学習”港湾計画
- 2) 防災船着場の有効活用を目指した手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

## 【福祉のまちづくり計画系】

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

## 【海洋プロジェクト系】

- 1) 海の情報戦略と港湾空間における“Regeneration（再生・復興・復活・改革）”
- 2) Something New Project

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や就職対策としての面接指導、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

## ●着手条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。

## ●2017年度 卒業論文

- 赤塚耕平：夜間における津波避難リスク軽減に関する研究  
齊藤晴香：防災船着場の利用における管理者規定と利用要請の問題に関する研究  
金子拓矢：平常時における地域防災指導員のあり方に関する調査研究  
阿久津研介：津波災害時における外国人観光客の情報ニーズに関する調査研究  
川原康之介：東京湾におけるラグジュアリー・ヨット誘致の可能性に関する調査研究  
小林圭吾：サーフィンを活用した地域振興に関する基礎的研究  
鈴木一帆：津波ハザードマップにおける経路記載に関する基礎的研究  
福島功理：プレジャーボートの利用実態からみる利用率向上に関する調査研究  
三岡 直：東日本大震災における避難所の生活実態に関する調査研究  
山田剛史：海水浴場における高齢者・障害者に対する津波避難対策の実態に関する研究



## Teaching Staff

教授  
北嶋 圭二

## ● 研究室紹介

当研究室では、沿岸域の陸上建築物から氷海域の海洋構造物まで、構造種別や設置場所にとらわれず、幅広い建築構造物を対象に、耐震構造、構造設計、建築防災をキーワードとした、下記に示す主要研究テーマについて研究を行っています。

## 1. 鉄筋コンクリート (RC) 造建物の耐震性能に関する研究

1-1 損傷低減のための耐震設計法および制震補強技術の開発 / 1-2 衝撃荷重を受ける RC 部材の挙動に関する研究 / 1-3 超高層 RC 造建物の柱梁接合部の構造性能に関する研究 / 1-4 海外の RC 造建物の耐震規定に関する調査・研究 etc

## 2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

2-1 次世代制震構造システムに関する研究・開発 / 2-2 滑り基礎構造システムに関する研究 / 2-3 折返しブレースを用いた構造システムに関する研究 / 2-4 制震構造建物の性能評価・設計法に関する研究 / 2-5 間柱型レンズダンパーの研究・開発 / 2-6 高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究 etc

## 3. 海洋建築物の構造性能に関する研究

3-1 津波漂流物の衝突に関する研究 / 3-2 氷海構造物の氷荷重評価と地震応答性状に関する研究 / 3-3 海洋建築物の設計法に関する調査・研究 etc

## 4. その他、企業からの受託研究など

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターや環境・防災都市共同研究センターの大型・最新実験設備を用いた、建築構造システムおよび建築構造部材の構造性能に関する実験的研究が多いことです。また、建物の弾塑性地震応答解析などコンピューターシミュレーション技術を用いた解析的研究も行っています。テクノプレース 15 に設置されている低温実験室の氷海水槽を用いた実験も行っています。

建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか幅広い分野を対象に研究を行っています。

## ● 卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定する。

## ● ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験

前期は基礎的な力学の勉強会を行う。また、海洋構造物や陸上建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるための小型模型実験を行う。実験は学部祭にて公開する。

## ● 着手条件

構造に興味があり探究心旺盛な人。

## ● 2017 年度 卒業論文

加賀山陽平・草川和広・立花佑一：柱梁強度比が異なる RC 造十字形柱梁接合部の多数回繰返し載荷実験（その 1 実験概要 / その 2 実験結果 / その 3 実験結果の比較検討）

後藤詩乃・本村豪星：力学的相似則を適用させた滑り基礎構造建物の振動台実験（その 1 相似則の誘導と時刻歴応答解析による検証 / その 2 二方向振動台実験）

坂本駿仁・吉田奈央：レンズダンパーを取付けた RC 造間柱の構造性能に関する基礎的研究（その 1 文献調査と間柱型レンズダンパーの概要 / その 2 解析モデルの概要および解析結果）

永野恭史・藤田勇汰：折返しブレースの座屈拘束メカニズムに関する研究（その 1 限界軸力  $N_c$  の誘導と検証実験の概要 / その 2 検証実験の結果）

萩原悠太：氷海域における固定式海洋構造物の地震応答に関する基礎的研究

森本 竜：被災前後の固有周期の変化率と建物損傷度の関係に関する基礎的研究

渡邊瑞貴・伊藤清香：津波漂流物の衝突を想定した RC 造柱の衝撃載荷実験（その 1 実験概要 / その 2 実験結果）

坂口桐央・前川拓海：フィリピン・セブ島の RC 校舎の耐震診断及び耐震補強に関する研究（その 1 耐震診断 / その 2 耐震補強方針）

## ● 2017 年度 修士論文

歌田航己：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究  
沖野貴久：剛性偏心を有する滑り基礎構造建物の地震応答性状に関する研究

柴田明奈：津波漂流物の衝突を想定した RC 造柱の挙動に関する研究

末武紘一：氷海域における海洋構造物に作用する氷荷重に関する実験的研究

高村皓輝：折返しブレース付き鋼構造建物の構造特性に関する研究

横澤 輝：多数回繰返し載荷を受ける高層 RC 造建物の十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究



大型構造物試験センターで実施した PC ハニカム構造の実験



低温実験室における氷海構造物の実験

## Teaching Staff

教授  
近藤 典夫

## ●研究室紹介

当研究室は、大スパン構造物や海洋構造物の周辺あるいは都市空間において流体（風、海流、波など）がどのように流れていくのか、そして構造物および人間にどのような影響を与えているのかなどを、コンピュータ・シミュレーションの手法を使って研究活動をしています。研究範囲は地上・海洋空間を問わず、あらゆる空間および興味あるものなら何もかも研究対象に加えていきます。

研究室の活動は、夏合宿、ゼミナール・卒業研究発表会、懇親会などを行い、楽しい一年間を過ごします。



ゼミ・卒研発表会の風景（軽井沢研修所）

## ●卒業研究のテーマ

卒業研究テーマは以下の通りです。他に希望するテーマでも卒業研究を行うことができます。

## [1] 流体運動

- 1) 構造物まわりの気流の数値的研究
- 2) 構造物の内部を流れる気流の数値的研究
- 3) 乱流の数値的研究
- 4) 大型海洋構造物まわりの海流と波の数値的研究
- 5) 大型貯蔵タンク内のスロッシングの数値的研究
- 6) 都市のヒートアイランドの数値的研究
- 7) 津波の遡上に関する数値的研究

## [2] 構造物の不安定振動

- 1) 風力を受けた構造物の渦励振の数値的研究
- 2) 海洋構造物の渦励振の数値的研究
- 3) 大型浮体構造物の波浪応答に関する数値的研究

## [3] シェル構造解析

- 1) シェル構造物の動的・静的解析
- 2) シェル・空間構造物の減衰特性

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミナールは卒業研究のための基礎的な事項についての学習

とその応用演習を行い、研究に必要な知識を習得します。内容としては以下の事を予定しています。

- 1) 数値流体力学と弾性力学の全般的な基礎学習
- 2) 有限要素法
- 3) コンピュータ・シミュレーションの仕方
- 4) フォートラン・プログラミング
- 5) 画像処理の方法（アニメーションの作り方）

## ●着手条件

特に設けていませんが、説明会には必ず出席をして下さい。やる気のある学生、大いに歓迎です。

## ●2017年度 卒業論文

小橋伸義：並列2角柱まわりの流れ特性に関する数値シミュレーション

櫻井郁斗：円筒形タンク内の液面動揺に関する非線形数値解析

関野史穂：長方形角柱の流体力と流力振動に関する解析

野崎泰斗：並列2円柱の流力振動における数値シミュレーション

山本啓太：直列2角柱に作用する空力特性に関する3次元数値解析

張 仕騰：列2円柱のインライン振動の数値解析

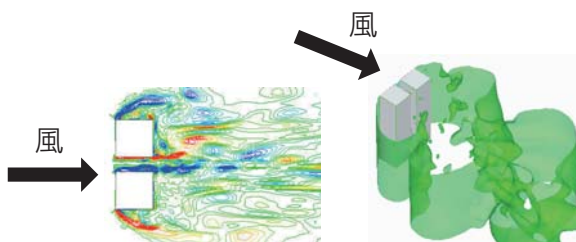
鷺尾亮汰：低レイノルズ数域の円柱の空力特性に関する数値解析

植田 翔：間隔比の変化による直列2円柱まわりの流れの相違について

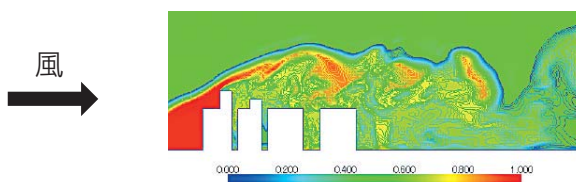
刈谷昭文：くい違い2角柱のギャロッピング振動に関する数値解析

## ●2017年度 修士論文

守川 耀：近接配置された直列2角柱の流体力及び流力振動に関する数値的研究



卒業研究より：並列2正方形角柱まわりの流れ（渦度、圧力等値面）



卒業研究より：建物群まわりの温度分布（地面が太陽光で温められている。赤色：温度が高い領域、青色：温度が低い領域）



## Teaching Staff

教授  
福井 剛

## ●研究室紹介

**研究のこと：**私たちの研究室では、①ひび割れが生じないために沿岸域の建物に用いても耐久性が極めて高く、②30mを超える大スパン構造を作ることができるためにデザイン性に優れた建物を作ることができる、プレストレストコンクリート（以下PC）構造を対象に、その力学的性状の解明と設計法の確立を目指して研究を進めています。PC構造は、東京スカイツリーの心柱に使われ、ザハ案の国立競技場のアーチタイにも使われる予定であった技術です。実用事例は他にもたくさんありますがここでは割愛。私たちの研究室での合言葉は、「世の中に直接役立つ研究をする！」です。これをもうちょっと具体的にいうと、「その成果が設計や開発および研究の場で広く用いられるような研究をする！」ということです。そして、そのためには、独創性が高いだけでなく構造設計者、研究者が使ってみたくするようなシンプルで信頼性の高い研究成果を生み出す必要があります。私たちがやってきた研究はこの要求をある程度満たしているのではないかと内心密かに自負しています。

**研究室の雰囲気：**堅い話になってしまいましたが、私たちは、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠であり、研究室では教員とゼミ生、卒研生、院生がお互いにフランクに話し合えるような場になりたいと考えています。日常会話の8割が雑談です。ただし、やるときは真剣勝負ですヨ。

## ●年間行事

①顔合わせ会：所属が決まったゼミ生が卒研生、院生、教員と親睦を深めるために4月下旬に実施。②夏合宿研究発表会：卒研生、院生が行っている研究の経過を発表するために厳格な雰囲気のなか9月初旬に実施。発表終了後は普段通りの無礼講タイム。③実験打上げ：実験終了時に無事故と研究成果を祝うための行事。④ほか：めでたいことなどがあれば適宜。

## ●今期予定の卒業研究テーマ

- 1) 長期荷重がPC造骨組の地震後の性能に及ぼす影響
- 2) 鉄筋コンクリート部材とPC部材のせん断終局強度の統一的评价手法
- 3) PC有孔梁の合理的な設計法の開発
- 4) PC造柱梁接合部の応力伝達モデルの開発
- 5) プレキャストPC圧着継目の滑り破壊耐力に対する設計法の提案
- 6) プレストレスト木質構造梁の開発



実験風景

上記の卒業研究の内、1)は実験を主体としており、フィールドワークが好きな人に向いています。2)～6)は解析が主となるので、コンピュータ好きの人に向いていると思います。ただ、ゼミに入って色々やっているうちに解析大好き人間に変身するケースも稀ではないので、君たちは自分自身にあまり先入観を持たないほうがいいのかもしれませんが、君たちが、真剣にこれらのテーマに取り組むとはまります。

## ●ゼミナールのテーマ

- 1) マトリクス法による任意形骨組解析ソフトの開発
- 2) 一級建築士に出題されている構造系科目を解く
- 3) 卒業研究時に必要なコンピュータスキル（CAD、エクセル、パワーポイント）の修得

テーマ1)、2)は、それぞれ週1回私たち教員が担当し、テーマ3)は週2回大学院生が担当しています。ゼミ生にはこれらのテーマから2つ以上を選択してもらいます。3年次には受講しなければならない大切な専門科目が目一杯あるので、そちらにも十分な時間が割けるよう配慮しています。

## ●着手条件

特に設けていません。構造力学、応用力学の知識はゼロであることを前提とした指導を行いたいと考えています（2年修了時点で構造力学をちゃんと理解している学生には別途対応します）。私たちの研究室では、成績最悪の学生がゼミや卒研をやっているうちに研究に目覚め大変身を遂げた例が結構ありました。私たちとしては、君たちにもぜひそうなってほしいのです。

## ●2017年度卒業論文

- 菱田優介：1層1スパンRC骨組の地震後における梁の長期曲げ性状  
 矢部ゆたか、山越紗由美：PCaPC柱圧着継目の滑りせん断耐力に関する設計手法のパラメータ解析  
 阿久澤洗樹、小柳翔：PC部材の曲げ変形性能支配要因  
 藤浪由揮、小林将斗、齊田健志、吉崎駿之介：PC梁のせん断終局強度推定式の適用範囲拡大に関する実験的研究  
 玉木李奈、瀬川純：プレストレストコンクリート部材を対象としたせん断終局強度式に関する研究  
 天野 岬、鈴木弘汰：円形開口を有するPC梁のせん断耐力式の提案  
 朝倉弘貴：鉛直荷重と地震荷重を受けるPC梁の曲げ変形性状  
 榎本憲嗣、小見雄一、佐藤宇邑：柱梁接合部のせん断抵抗メカニズムに関する研究

## ●2017年度修士論文

- 姜 建毅：鉛直荷重を受けるRC骨組の地震後の曲げ性状

資源・  
エネルギー  
開発系

## 海洋空間利用工学研究室

## Teaching Staff

教授  
居駒 知樹准教授  
恵藤 浩朗助教  
相田 康洋

特任教授 増田 光一

## ●研究室紹介

当研究室は海洋建築物、海洋構造物の計画・設計に必要な工学技術と性能の評価方法を開発するといった研究活動を行っています。海洋建築物や海洋構造物の種類は多岐にわたり、一見機械的装置である海洋エネルギー利用構造物から船舶、海上医療関連施設まで様々であり、海洋波中での安全性の確保や実現可能性を高めることが当研究室の目標となります。

浮体式構造物も着床式構造物も海洋波である波浪や津波の影響を受けるため、設計にそれらを考慮する必要があります。その評価には波や流れなどの流体の影響による揺れや振動といった課題から応力集中や疲労といった構造設計上の課題まで様々です。また、近年では津波に対する沿岸域の防災意識の高まりにより、港湾内に係留される船舶の被災予測からそれによる陸側への被害拡大とその回避についても解決すべき課題となっています。海洋空間を利用した新たな社会を構築するために必要な建築物や構造物の提案を行い、海域あるいはその影響を直接受ける場所に建造されるそれらの実現に必要な設計関連技術全てが当研究室の研究テーマです。幅広い課題解決を目標としていますが、次のような研究領域が基本となります。

- 1) 海洋建築物のニューコンセプトの提案
  - 2) 海洋波と構造物の相互影響と運動応答性能評価
  - 3) 海洋波中の構造物の構造安全性の確保とその評価
  - 4) 海洋再生可能エネルギーと海洋資源の有効利用のための技術開発
  - 5) 海からの脅威に対する防災・減災対策の確立
- これらの応用として次に示す各種海洋建築物の性能評価および構造評価を目的とした研究を行っています。

## ●卒業研究のテーマ

研究室紹介に記載した研究テーマや、それぞれのテーマにまたがった横断的な研究テーマも含め、各自の意向に基づいて卒業研究を選択して卒業研究を実施する。

## ●ゼミナールのテーマ

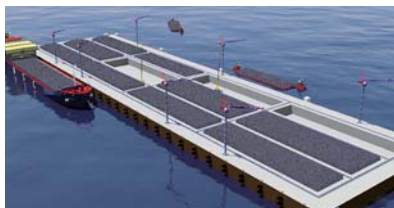
ゼミナールでは卒業研究を実施する上で必要となる基礎的なスキルを身につけるための学習を実施し、研究に必要な知識の修得を目指します。具体的には週1回の講義や演習形式のゼミナールがメインの活動となり各種理論や計算方法を一から学びます。またテクノプレース 15 の大型水槽などを利用して海洋建築物・構造物の動揺問題や津波防災、海洋エネルギー開発の現場を、実験を通して体験しながら学びます。

## ●着手条件

特に条件は求めないが、「海洋建築」への情熱や気力、体力



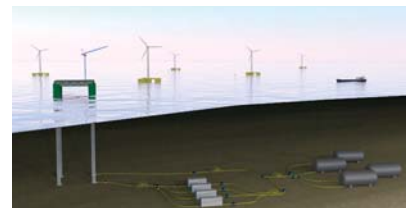
夏合宿（鬼怒川温泉郷）



石炭貯蔵・払出浮体基地



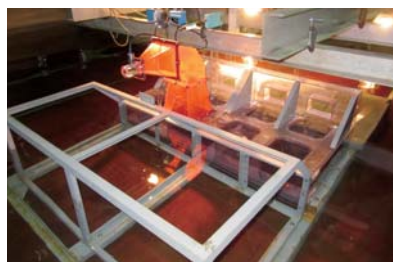
ブラジル北東部におけるジャッキアップ式拠点港



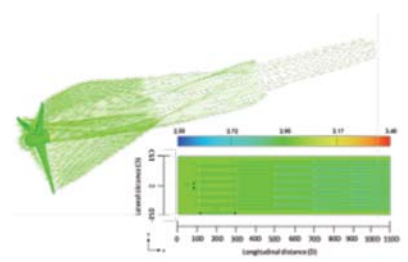
深海を活用した水素生産施設の提案



垂直軸型可変ピッチ翼水車の実海域実験



水柱振動型波力発電装置の水槽実験



複数配置した潮流発電装置の数値シミュレーション



のある学生、また大学院への進学希望者を歓迎します。巨大津波に対する備えとして防災や減災、避難に関する研究や更なる海洋再生可能エネルギーの利用や開発、新しいコンセプトとして提案される浮体式建築物の構造計画や構造設計など「海洋建築」に興味がある学生は是非、研究室へ相談に来て下さい。

#### ● 2017年度 卒業論文

- 孫 嘉隆：浅海域における超大型浮体挙動に与える喫水及び浮体底面と海底とのギャップ影響に関する基礎的研究
- 尹 嘉璋：PW-OWC型波力発電装置を搭載した大型浮体の弾性変形に関する研究
- 王 哲輝：浮体式垂直軸型洋上風車の動揺特性に関する基礎的研究
- 飯塚功二：大型石炭貯蔵浮体の局所材に作用する応力に関する基礎的研究
- 魚住仁士：PW-OWC型波力発電装置のPWの構造強度に関する基礎的研究
- 大塚 愛、寺島由佳：大型石炭貯蔵浮体の規模に関する基礎的研究
- 小川拓麻：ULFPSOの内部水面の動揺に関する基礎的研究
- 海保紘大：深海を活用した水素生産・貯蔵システムの提案と経済性に関する基礎的研究
- 史 岳川：CFD (OpenFOAM) による水平軸水車の性能評価に関する基礎的研究
- 澁谷若菜、福永勇太：津波中の作業船の係留被害と減災対策に関する基礎的研究
- 須貝友貴：引き波時における構造物群に作用する津波波力特性に関する基礎的研究
- 巢河香里：浮体式PW-OWC型波力発電装置の一次変換にノズル係数が及ぼす影響に関する研究
- 樋口夢乃：垂直軸型洋上風力発電施設のタワー下部の荷重特性に関する基礎的研究
- 藤谷真由子：東京湾内の海上交通と水上飛行機運用の可能性

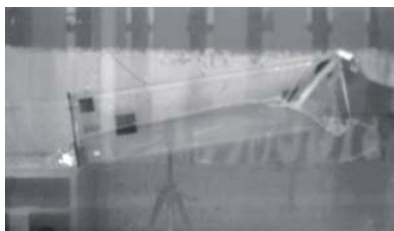
に関する基礎的研究

- 町田香穂：有孔消波ケーソンにOWC型波力発電装置を設置した場合の一次変換性能に関する研究
- 伊佐野未季、澤村晴香：鎌倉市由比ヶ浜における新規避難施設の配置計画に関する基礎的研究
- 大原 誠：反射流影響を考慮した津波漂流物の衝突荷重に関する実験的研究
- 岡田雄太：垂直軸型可変ピッチ翼水車の翼の諸設定が水車性能に与える影響に関する研究
- 勝井脩平：JU-MSPの浮遊時の安定性とPSVの波浪応答特性に関する基礎的研究
- 木原寛明：大型石炭貯蔵浮体システムの運動応答特性と荷役稼働率に関する基礎的研究
- 志柿友基：双胴船型浮体式垂直軸型水車の浮体動揺に関する基礎的研究

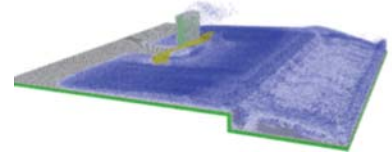
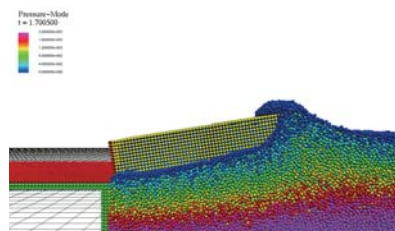
#### ● 2017年度 修士論文

- 石橋榮稔：港湾内における津波による係留船舶の漂流被害予測および低減対策に関する基礎的研究
- 岩松幸花：浮体式垂直軸型水車の波浪中応答特性に与える回転影響に関する基礎的研究
- 金子大介：東京湾における作業船の津波被害低減対策に関する基礎的研究
- 久保田充：大型石炭貯蔵浮体の構造強度に関する基礎的研究
- 渋谷省吾：消波ケーソンを利用したOWC型波力発電装置のパワー変換特性に関する基礎的研究
- 松岡晃弘：被衝突物による流体の攪乱を考慮した津波漂流物の衝突に関する研究
- 宮下奈々恵：離島港湾における係留船舶の動揺と係留索張力の応答特性に関する基礎的研究
- 李 贊臻：係船を伴うジャッキアップ式拠点港の安定性に関する基礎的研究

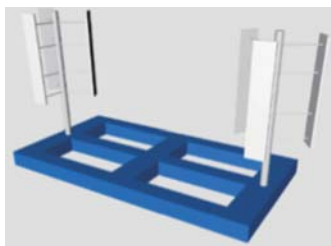
※ 2019年度より、当研究室は居駒・相田研究室と恵藤研究室に分かれて活動することを予定しています。



粒子法による浮体乗り上げシミュレーションと実験の比較



津波による建築物と浮体の衝突シミュレーション



浮体式垂直軸型洋上風車モデル



建築物に作用する津波衝撃波圧に関する実験



津波による建築物間の縮流現象に関する実験

## Teaching Staff

教授  
大塚 文和

## ●研究室紹介

当研究室では、“楽しく研究”、“笑顔で卒業”を謳って、海洋における環境を主対象に研究活動を行っています。

特に、東京湾を対象に東日本大震災に伴い発生した福島原子力発電所事故により放出された放射性物質の動態、並びに近年累々と拡大されてきた沿岸の埋立地の間に孤立的に存在する干潟や浅場に生息する生物が離れた別の孤立的な生息場の生物とどのように相互に影響し合っでそれぞれの生存を図っているのか？生態系ネットワークについて研究を進めています。

また、東日本大震災時に流出した漂流物、いわゆる震災漂流物と共に東北地方に生息していた生物も、アメリカ、カナダなどの環太平洋の国々、島々に移動・侵入していることが明らかになりつつあります。例えば、昨年には、北太平洋を一周して



伊豆大島研究室合宿 2017年10月



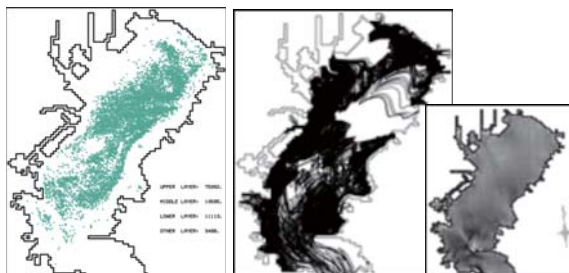
小笠原諸島・父島母島調査 2017年12月



アサリ稚貝調査



放射線量調査



アサリ幼生の浮遊を考慮した浮遊シミュレーション

たどり着いたと考えられる付着生物を伴った震災漂流物が、沖縄沿岸で見つかっています。当研究室でも、伊豆大島や小笠原諸島にも行って調査をしています。更に、北赤道海流の中に点在する島々にも行って、調査をしたいとも考えています。

## ●卒業研究のテーマ

卒業研究の主なテーマは、次のとおりです。実際に干潟・海浜や海上で観測を行い、パソコンで観測データの解析、再現シミュレーションや予測シミュレーションなどを実施して研究を進めていきます。

## 1. 生態系（アサリ）ネットワークの解明

- ①アサリ幼生の遊泳行動のモデル化と再現性評価
- ②アサリ幼生の浮遊シミュレーションによる生息場間のネットワークの解析・評価

## 2. 放射性物質の実態解析と拡散予測

- ①三番瀬における放射線量の実態解析
- ②葛西臨海公園海浜における放射線量の実態解析
- ③東京湾内湾における放射性物質の堆積状況の調査・解析

## 3. 震災漂流物に伴う生物の移動・侵入調査

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミ生の受付は、終了しました。

## ●着手条件（卒業研究）

特に設けていませんが、個別面談を受けて下さい。やる気のある人を期待します。また、海が好きの人、あるいは“環境”に興味のある人、釣りが好きな人も、歓迎です（卒業研究のみ受付けます）。

## ●2017年度 卒業論文

佐竹康平：葛西臨海公園西なぎさ海浜における放射線量について

山口兼右：東京湾における生態系ネットワークに関する基礎的研究



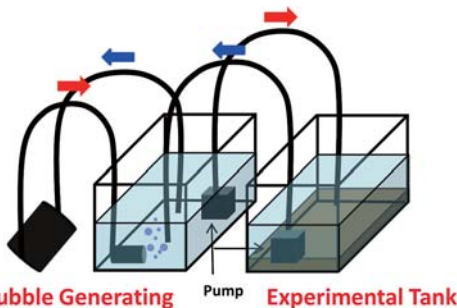
## Teaching Staff

教授  
岡本 強一

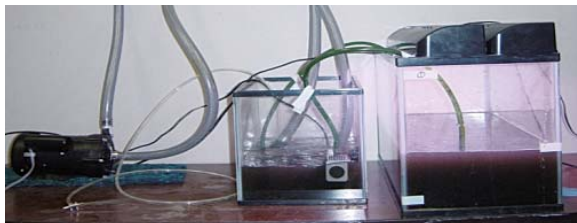
## ● 研究室紹介

本研究室は環境工学に関する調査研究と技術開発を行っています。研究は主に「環境再生」をめざし、生態システムの再生・整備に関する実証実験、環境シミュレーション、モニタリング調査を通じ、沿岸域・海域における豊かで快適な居住環境の実現のための技術開発と研究を行っています。

特に、生物生息環境の改善・修復・創出をするためには、環境工学技術によって人間活動の影響をなくすのではなく、生態系と共生することが重要であり、人間や生態系をシステム全体として取り扱おうとする「生態システム工学」を念頭に、海の「環境再生」を目標にします。また最近、循環型浄化システムを開発して条件設定を追究し、さらに実用化のための応用技術の取得を目指しています。



循環型浄化システム (概念)



循環型浄化システム

## ● 卒業研究のテーマ

1. 「実験的手法による環境再生 (水質浄化)」
  - ・ファインバブルを用いた循環型浄化システム
  - ・電気分解の原理を用いた水質浄化システム (東京大学生産技術研究所・北澤先生と共同研究)
2. 「減容化を考慮した堆積汚泥に吸着したセシウムの効率的除去システムの開発」
  - ・循環型浄化システムを用いたセシウム除去



研究室メンバーと一緒に

- (理工学部物質応用化学科・遠山先生と共同研究)
- ・ウルトラファインバブルと微生物による水質浄化 (生産工学部環境安全工学科・小森谷先生と共同研究)
- その他、学生からの新しいテーマの提案も大歓迎です。

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミ生の受付は、終了しました。

## ●卒業研究着手条件

研究室説明会に出席して、必ず個人面談を受けて下さい。やる気のある人を優先します。

## ●2017年度 卒業論文

中村隆浩：循環型浄化システムにおける微生物活性剤の投入時刻に対する浄化性能比較



フィリピンでの浄化実験 (マニラ湾)



フィリピンでの浄化実験 (パシグ川)



フィリピン工科大での特別講義を終えて

## Teaching Staff

教授  
小林 昭男助教  
野志 保仁

## ●研究室紹介

本研究室の海洋建築工学科における位置付けは、「海洋環境工学系の研究室」です。海洋建築物に必要な良質な海洋空間の整備・創造や海洋空間の高度な利用方法に関わる技術を総合的に研究し、成果を実際のプロジェクトに反映できるように整備しています。さらに、(財)土木研究センターから客員教授を招聘し、企業からも上席客員研究員を招聘して、研究のレベル向上にも努めています。



現地調査の様子（ベトナム）

## ●卒業研究のテーマ

卒業研究の主題は次の通りです。春に現地踏査を行い、これらの主題に沿った海浜を対象にして研究を行います。研究の成果は、必ず社会全体に役立ちます。

## 1. 良質な海洋建築空間の整備・創造

- 1) 海岸侵食の現況調査と原因究明および対策立案
- 2) 侵食された海浜の新しい修復技術の開発

## 2. 良好な海洋空間の利用方法

- 1) 海浜の過度な土地利用の弊害
- 2) 侵食対策によって創造された海浜の変遷

## ●ゼミナールのテーマ

就活・進学に役立つ建築や海洋の基礎を復習します。

- 1) 科学技術英語の基礎を学びます
- 2) 研究に役立つ参考書を共に学びます
- 3) 既往研究の解説を聞いて研究の方法を学びます
- 4) データの分析方法やレポートの書き方を学びます
- 5) 興味があれば模型実験や数値計算も学びます
- 6) 海岸の状況を体験的に学ぶ踏査や調査にも参加できます
- 7) 海岸保全施設の機能が理解できるようになります
- 8) 研究室員全員で行う千葉県沿岸での合宿で、現地調査の方法、海岸の環境問題を学びます



海岸環境の修復活動（福岡県水島）



ゼミ生歓迎会の様子

- 9) 懇親の場で先輩たちと楽しく食べて飲んで学ぶ場も提供しています

## ●着手条件

2018年度の卒研生・ゼミ生は、私たちの研究を推進させる人材になると期待しています。海岸地形や海浜環境の再生・修復に興味のある学生なら、だれでもゼミナールや卒研に着手できます。

## ●2017年度 卒業論文

- 辻 周作：潟沼中石崎の養浜効果と植生範囲の変化  
石井久美子・加納侖果：東京湾岸におけるウォーターフロントの娯楽施設の需要  
石井亮馬：セルオートマトン法による飛来塩分の輸送予測モデルに関する研究  
井上雄大・鈴木佑弥・並木直人：一松海岸における養浜効果の検証に関する研究  
梅田天斗：東京都新島村羽伏浦海岸における侵食に関する研究  
小沢優仁・磯村和輝：幕張人工海浜における海浜変形の実態  
唐澤隆吉・中野拓海：中里海岸における養浜効果に関する研究  
清水優希：侵食海岸における既存対策の検討  
清水 遼：上総湊総湊の侵食の現状と対策に関する研究  
棚井 愛：富津新港の防波堤隅角部における砂浜の形成  
三堀 謙：潟沼湖広浦における養浜効果の検証に関する研究  
目野玄也：一宮海岸における養浜効果の検証に関する研究  
山口航平：稲村ヶ崎近辺の七里ヶ浜の底質特性と漂砂機構の解明に関する研究  
山本貴也：護岸接合部に生じた隙間からの土砂流出に関する研究  
吉田潮美：海の磯焼け対策及び抗腫瘍機能を有する藻類育成に関する研究  
渡部末樹久：養老川水系高滝ダムにおける堆砂の養浜材としての活用

## ●2017年度 修士論文

- 橋本佳樹：密度および形状の異なる材料により形成される海浜地形の比較に関する研究



## 教員研究業績 研究室活動業績

### 小林(直)研究室

#### 審査付論文

- ◆小林直明・畔柳昭雄：研究施設における知的生産性を高めるための建築空間の計画手法、日本建築学会計画系論文集 第82巻 第737号、pp1685-1693,2017.7.
- ◆小林直明・畔柳昭雄：研究施設における内部と外部空間の連携による空間的効果の計画手法、日本大学理工学部理工学研究所研究ジャーナル、第138号、pp1-10,2017.2.
- ◆伊澤岬・小林直明・他4名：東日本大震災復興都市モデル計画 一津波を抑え込む都市からかわす防災都市へ、日本大学理工学部理工学研究所研究ジャーナル、第127号、pp11-21,2012.2.

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆小林直明：研究施設における知的生産性を高めるための建築空間の計画手法、日本建築学会大会(中国)建築デザイン発表、2017.9.
- ◆加藤毅三：水上飛行機を活用した新しいウォーターフロント施設群の提案、日本建築学会大会(中国)建築デザイン発表、2017.9.
- ◆小林直明：震災復興・防災都市デザイン計画手法の実証的研究～「かわす」理念と「普段使い」の防災計画～、日本海洋工学会シンポジウム、2017.3.

#### 著書・執筆等

- ◆日刊建設工業新聞「日本大学理工学部海洋建築工学科 小林直明研究室」2018.1.24.

#### 受賞

- ◆服部立：2017 建築新人戦 BEST16 建築新人戦実行委員会 2017.9.23.
- ◆中村圭佑、佐藤未来、加藤柚衣、赤堀厚史：全国「佳作」/タジマ奨励賞 2017 年度日本建築学会設計競技 日本建築学会 2017.8.31.
- ◆島田将武、浅野健、青木絵子、松下知可：四国支部入選 2017 年度日本建築学会設計競技 日本建築学会 2017.8.31.
- ◆ジャパンレゾリエンスアワード2016(国土強靱化大賞)最優秀賞・優秀賞・優良賞(水上ネットワーク・放射線被災地の復興まちづくり・津波をかわすまちづくり)2016.3.

#### 学外活動

- ◆日本建築学会、海洋建築計画小委員会・歴史的規模木造宿泊施設の計画小委員会：小林直明
- ◆SDC(太陽エネルギーデザイン研究会)理事：小林直明
- ◆水上飛行機ネットワーク構想研究会 幹事：小林直明

### 桜井研究室

#### 審査付論文

- ◆渡邊亮・桜井慎一・鷹島充寿：津波ハザードマップの表記内容の統一性に関する研究 一全国の沿岸市町村における不統一の現状と課題一、日本沿岸域学会、沿岸域学会誌、Vol.30、No.1、pp.17～27、2017.6.
- ◆寺口敬秀・桜井慎一：わが国における水中文化遺産の分布とダイビング活用状況から見た今後の展望、日本観光研究学会、観光研究、第29巻第2号、2017.3.

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆渡邊亮・桜井慎一・鷹島充寿・寺口敬秀：住民におけるハザードマップの利用促進に関する研究 一全国の沿岸市区町村に対するアンケート調査一、日本沿岸域学会、平成29年度全国大会講演概要集No.30、論文番号1-1、2017.7.
- ◆池ヶ谷典宏・桜井慎一：海の観光遊覧船による地域活性化に関する研究 一全国を対象にした運営の現状と課題一、日本建築学会、2017年度大会(中国)学術講演概要集海洋建築部門、pp.5-6、2017.9.
- ◆関口潤耶・桜井慎一・渡邊亮：水中ライトアップの現状に関する研究、日本建築学会、2017年度大会(中国)学術講演概要集海洋建築部門、pp.7-8、2017.9.
- ◆倉田直樹・桜井慎一・池ヶ谷典宏：津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度に関する研究 一静岡県沿岸地域を対象として一、日本建築学会、2017年度大会(中国)学術講演概要集海洋建築部門、pp.9-10、2017.9.
- ◆唐崎雄亮・桜井慎一・渡邊亮：鉄道線路が津波避難に及ぼす影響に関する研究 一東北地方太平洋沿岸4県下の市町村を対象として一、日本建築学会、2017年度大会(中国)学術講演概要集海洋建築部門、pp.13-14、2017.9.
- ◆神田英輝・桜井慎一・野口翔：河川を遡上する津波からの避難対策に関する研究 一(その1)河川管理者・自治体のハード面における対策一、日本建築学会、2017年度大会(中国)学術講演概要集海洋建築部門、pp.17-18、2017.9.
- ◆野口翔・桜井慎一・神田英輝：河川を遡上する津波からの避難対策に関する研究 一(その2)河川管理者・自治体のソフト面における対策一、日本建築学会、2017年度大会(中国)学術講演概要集海洋建築部門、pp.19-20、2017.9.
- ◆渡邊亮・桜井慎一・寺口敬秀・塚本寛人・菊池諒光：夜間用津波避難誘導標識の整備状況に関する研究 一静岡県下の沿岸市町村を対象として一、日本災害情報学会、第19回学会大会予稿集、pp.202-203、2017.10.
- ◆小林駿邦・桜井慎一・寺口敬秀・渡邊亮：津波避難誘導標識の効果的な設置方法に関する研究 一鎌倉市を対象とした津波避難誘導標識の設置状況一、平成29年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系) <講演番号J-1>、2017.12.
- ◆唐崎雄亮・桜井慎一・寺口敬秀・渡邊亮：鉄道線路が津波避難に及ぼす影響に関する研究 一全国の沿岸部鉄道事業者を対象として一、平成29年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系) <講演番号J-2>、2017.12.
- ◆池ヶ谷典宏・桜井慎一・寺口敬秀：要塞跡地の観光資源化に関する研究 一全国を対象にした現状と課題一、平成29年度日本大学理工学部学術講演会講

演論文集(海洋建築系) <講演番号J-3>、2017.12.

- ◆野口翔・桜井慎一・寺口敬秀・大津俊裕：クルーズ船の寄港地に適する港の選定手法に関する研究 一北海道を対象とした寄港魅力度に基づく考察一、平成29年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系) <講演番号J-4>、2017.12.
- ◆倉田直樹・桜井慎一・寺口敬秀・渡邊亮：津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度に関する研究 一高知県、和歌山県、三重県沿岸地域を対象として一、平成29年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系) <講演番号J-5>、2017.12.
- ◆寺口敬秀・桜井慎一・野口翔・大津俊裕：クルーズ船寄港地の選定手法に関する研究 一北海道を対象とした寄港魅力度の算定一、日本観光研究学会、第32回全国大会学術論文集、pp.189-192、2017.12.

#### 学外活動(講演・講師等)

- ◆桜井慎一：日本沿岸域学会 平成29年度研究討論会 指定討論者、平成29年7月22日
- ◆桜井慎一：日本建築学会、日本建築学会大会(中国)海洋建築部門、研究協議会、「瀬戸内の島々と海の活用」パネラーまとめ、2017.9.2.
- ◆寺口敬秀：国土交通省国土技術政策総合研究所、第18回東京湾シンポジウム～沿岸域の持つサービスと沿岸環境～、招待講演、「ウォーターフロントの住宅を選択した住民の居住環境意識」、2017.10.20.

#### 学外活動

- ◆桜井慎一：船橋市開発審査会 会長
- ◆桜井慎一：横須賀市西地区漁港海岸整備計画策定検討委員会 委員長
- ◆桜井慎一：船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会 委員
- ◆桜井慎一：館山市建設工事総合評価委員
- ◆桜井慎一：臨海部都市再開発研究会 委員
- ◆桜井慎一：文部科学省科学技術動向研究センター科学技術専門家ネットワーク専門調査員
- ◆桜井慎一：日本沿岸域学会 理事
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会 幹事
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築企画小委員会 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築計画小委員会 幹事
- ◆桜井慎一：日本建築学会・津波建築システム小委員会 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築用語事典改訂準備WG 委員
- ◆寺口敬秀：石油技術協会・作井技術委員会(事務局)
- ◆寺口敬秀：石油技術協会・HP委員会 委員

#### 研究助成・受託研究

- ◆桜井慎一：研究奨励寄付金、クルーズ客船の寄港地に適する港の選定手法と整備方針に関する研究、一般財団法人みなど総合研究財団、平成29年度未来のみなとづくり助成

## 佐藤研究室

## 審査付論文

◆Shinji Sato, Yuji Yamakage, PROPOSAL OF A FLOATING-TYPE ENVIRONMENTAL PURIFICATION FACILITY INCORPORATING THE FUNCTION OF TIDELAND : International Journal of GEOMATE, May, 2018 Vol.14, Issue 45, pp.78-83, Geotec., Const. Mat. & Env., DOI:ps://doi.org/10.21660/2018.45.7304ISSN: 2186-2982 (Print), 2186-2990 (Online), Japan

## 研究助成・受託研究

◆平成 29 年度理工学部理工学研究所先導研究推進助成金、CSTi-天文台の開発と小惑星および突発天体観測への応用 (Development of CST intelligent Astronomical Observatory and its Application to Observations of Asteroids and Transient Objects)、研究代表者: 阿部新助、研究分担者: 根来均、佐藤信治、田中俊成、研究期間:平成 29 ~ 30 年度、助成金額合計: \30,000,000

## 学術講演会

- ◆蒲生良輔・永富快・千葉雄介・佐藤信治・青木絵子・赤堀厚史・勝部秋高・桜井南実・篠原 健・住吉文登・高橋遼太郎: 秋田県小坂町まちづくり計画 一その 1 廃線により産業と観光と暮らしが共存する町の提案一、第 61 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.636-637、2017.12.1
- ◆宮嶋悠輔・重田秀之・金井亮祐・黄起範・山本淳樹・渡辺真理恵・アナスタシア ルネンコバ・三枝晃・笹川雄基・佐藤信治: 秋田県小坂町まちづくり計画 一その 2 旧十和田小中学校再編計画一、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.638-639、2016.12
- ◆佐々木秀人・三橋一貴・根本一希・山本壮一郎・矢島結菜・松下知可・上田紗矢香・高橋翔・佐藤信治: 秋田県小坂町まちづくり計画 一その 3 小坂町の魅力を高めるワイナリーの提案一、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.642-643、2016.12
- ◆青木絵子・佐藤信治: 開発としての建築、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.640-641、2016.12
- ◆黄起範・佐藤信治: 大洋の湊舟城 一自己拡張する洋上都市の提案一、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.646-647、2016.12
- ◆佐藤信治・千葉雄介: 中国河北省唐山市曹妃甸区における観光マリナーの設計一観光ビジネスを取り入れた複合施設の提案一、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.644-645、2016.12
- ◆佐藤信治・重田秀之: 水辺を活かした MICE 施設の計画 一インバウンドブームを受けた新たな国際 ビジネス競争拠点の提案一、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.648-649、2016.12
- ◆佐藤信治・高橋翔: 漢方バイオ医療産業を含めた医療観光リゾートの提案、中国哈爾濱市における水辺環境を活かした医療複合施設の設計: 第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.650-651、2016.12
- ◆金井亮祐・佐藤信治: 水害のなくなる日 一栃木市における巴波川の水害からコミュニティと山車祭りを守るまちの提案一、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.652-653、2016.12
- ◆矢島結菜・佐藤信治: 茶山に住む 一入間市の未来につながる複合施設案一、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.654-655、2016.12
- ◆松下知可・佐藤信治: 隠れた河と住む、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.656-657、2016.12
- ◆佐藤信治・赤堀厚史: 沈みゆくまちの保存~バンングラデシュにおける新たな防災施設の設計案~: 第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.658-659、2016.12

## 日本建築学会

- ◆宮嶋悠輔・佐藤信治: 14001 湯郷の残滓、日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集、pp.2-3、2017.9.1
- ◆蒲生良輔・佐藤信治: 14002 結い留める水田、日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集、pp.4-5、2017.9.1
- ◆佐々木秀人・佐藤信治: 14039 共助する異文化 産業教育を介した難民教育施

- 設の提案、日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集、pp.78-79、2017.9.2
- ◆滝村菜香・佐藤信治: 14074 水の複合利用による地域防災施設の提案、東京都中央区日本橋箱崎町ポンプ所をケーススタディとして、日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集、pp.148-149、2017.9.3
- ◆永富快・佐藤信治: 14125 都市に脈打つ駅 溶ける境に芽吹く街、日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集、pp.250-251、2017.9.1
- ◆山影悠時・佐藤信治: 14144 干潟の機能を取り入れた浮体式浄化施設の設計、東京湾におけるリゾートホテルを核とした提案、日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集、pp.288-289、2017.9.2
- ◆上田紗矢香・佐藤信治: 14157 潤いの成長拠点 ツーリストと共に生きるコムルー村、日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集、pp.314-315、2017.9.2
- ◆志賀佑太・佐藤信治: 14171 海に関する学習を提供する新国立青少年自然の家の提案、三浦市の地域資源を活用した施設の設計、日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集、pp.342-343、2017.9.3

## 海洋工学シンポジウム発表

- ◆佐藤信治・山川大喜・重田秀之: 首都圏における橋の防災拠点化計画の提案、東京都品川区京浜運河に架かる勝島橋をケーススタディとして、OES26-083、2017/3/7

## 作品

## 実施コンペ

- ◆佐藤信治 + 中国四川创成规划设计有限公司、北京市手帕口南街綜合項目概念性設計業務プロポーザルコンペ、総合第 1 位、中国北京市、2017 年 8 月

## 卒業設計

- ◆第 29 回千葉県建築学生賞 (主催: 千葉県建築学生賞協議会、応募総数: 17 点) 市民賞: 蒲生良輔、奨励賞: 濱嶋社人
- ◆卒、(そつてん): 総合資格賞、上田紗矢香
- ◆せんだいデザインリーグ: 100 選、上田紗矢香
- ◆せんだいデザインリーグ: 100 選、宮嶋悠輔

## 建築学会コンペ

- ◆「課題「地域の素材から立ち現れる建築」(主催: 日本建築学会、応募締切: 6 月 26 日、応募総数: 312 点)
- ◆タジマ奨励賞: 赤堀厚史 (佐藤研)、中村圭佑 (小林研)、佐藤未来 (小林研) 加藤柚衣 (小林研)
- ◆四国支部入選: 松下知可 (佐藤研)、青木絵子 (佐藤研)、島田将武 (小林研)、浅野健 (小林研)

## その他コンペ

- ◆建築新人戦 (主催: 建築新人戦実行委員会、共催: 総合資格学院、積水ハウス、アーキテクト・スタジオ・ジャパン株式会社 / ARCHITECTS STUDIO JAPAN INC、応募締切: 8 月 9 日、応募総数: 583) : 100 選: 勝部秋高、100 選: 山本壮一郎、100 選: 笹川雄基
- ◆歴史的空間再編コンペティション 2017 (主催: 歴史的空間再編コンペティション実行委員会 共催: 株式会社総合資格、株式会社国土開発センター、他 10 社、募集締切: 10 月 23 日、応募総数: 約 250 点)、50 選: 重田秀之・宮嶋悠輔・金井亮祐・山本淳樹・ルネンコバ・アナスタシア・渡辺真理恵・三枝晃・笹川雄基
- ◆「シェルター-インターナショナル学生設計競技」事務局 (主催: 株式会社エンルター「シェルター-インターナショナル学生設計競技」東京事務局、後援: 株式会社新建築社、応募締切: 10 月 18 日、応募総数: 約 176 点) 一次審査通過中: 蒲生良輔・山本淳樹

## 受賞

- ◆宮嶋悠輔: 秋田県小坂町まちづくり計画 一その 2 旧十和田小中学校再編計画一
- ◆千葉雄介: 中国河北省唐山市曹妃甸区における観光マリナーの設計一観光ビジネスを取り入れた複合施設の提案一
- ◆勝部秋高: 第 9 回 Vectorworks 教育シンポジウム 2017 作品展示 (大手町サンケイプラザ 2017 年 8 月 25 日)



## 教員研究業績 研究室活動業績

### 著書・執筆等

- ◆佐藤信治ほか編・著：OASIS加盟校学生作品集「2017年度版」、エーアンドエー株式会社、2017年8月25日
- ◆佐藤信治他編・著：三訂版空間デザインを学ぶ、(株)DTP出版、2017年9月19日
- ◆佐藤信治他著：第14回JIA関東甲信支部大学院修士設計展（作品集）、(株)総合資格学院、2018年2月20日

### 学外活動（講演・講師等）

- ◆佐藤信治：秋田県小坂町の未来について日本大学の学生と考えました、於：秋田県小坂町小坂町交流センター・セバーム内大ホール、2017年9月6日、成果報告講演会講師

### 学外活動

- ◆(株)日本建築学会全国建築系大学教育連絡協議会 委員
- ◆(株)日本建築学会 JABEE 学部課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会 審査 委員
- ◆(株)日本建築学会 JABEE 修士課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員

### 会審査 委員

- ◆(株)東京建築士会
- ◆千葉県産学連携建築連絡会議運営委員会 委員
- ◆千葉県建築学生賞、運営委員会 委員
- ◆秋田産業サポータークラブ 幹事
- ◆秋田産業サポータークラブ地域連携観光 WG 主査
- ◆(株)海洋環境創生機構運営委員会 委員
- ◆秋田県能代市産業振興アドバイザー
- ◆秋田県登録文化財所有者の会 幹事

### 海外出張・海外調査

- ◆佐藤信治、中国・北京・ハルビン、2017年3月27日～30日、哈爾濱市歴史的文化保存地区再生計画のため
- ◆佐藤信治、中国・唐山、北京、2017年8月9日～16日、唐山市ウォーターフロント再開発計画のため
- ◆佐藤信治、中国・ハルビン、2018年1月16日～18日、哈爾濱市歴史的文化保存地区再生計画のため

## 畔柳・菅原研究室

### 審査付論文

- ◆小林直明・畔柳昭雄：研究施設における内部と外部空間の連携による空間的効果の計画手法、日本大学理工学部理工学研究ジャーナル No.138、pp.1-10、2017.2.
- ◆加藤千尋・畔柳昭雄・菅原遠：昭和戦前期における在朝鮮人の住宅問題と東京市の住宅供給施策について、日本建築学会計画系論文集 第82巻 第734号、pp.987-997、2017.4.
- ◆Ryo Sugahara・Akio Kuroyanagi：Research on Optimum Function and Utilization of Oceanic Architectures for Marine Space Use-Case Study on Kyusyu Region, Japan-, Proceedings of the ASME 2017 36th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering OMAE2017, OMAE2017-61618, 2017.6.
- ◆小林直明・畔柳昭雄：研究施設における知的生産性を高めるための建築空間の計画手法、日本建築学会計画系論文集 第82巻 第737号、pp.1685-1693、2017.7.
- ◆田島佳征・畔柳昭雄：沖縄県の人工ビーチ整備から見た海岸利用に関する研究、沿岸域学会誌 Vol.30 No.2、pp.75-80、2017.9.
- ◆Lee Myung-Kwon・Oh Kwang-Suek・Akio Kuroyanagi・Ryo Sugahara・Shunya Miyakawa・Jung Won-jo：A Study on the Function and Use of Sea Buildings according to the Transition of Sea Water in the Harbor Cities-Focusing on Japan-, Cultural Interaction Studies of Sea Port Cities No.17、pp.161-181、2017.10.
- ◆宮川駿也・畔柳昭雄・菅原遠：海洋建築物の経年的な適応と海域利用に関する調査研究、日本建築学会計画系論文集 第82巻 第741号、pp.3041-3049、2017.11.
- ◆菅原遠・畔柳昭雄：神田川流域における染色業を中心とした地域づくりとその今日的動向の特徴、環境情報科学学術研究論文集 31、pp.107-112、2017.11.
- ◆新井侑子・畔柳昭雄・菅原遠：江戸期から昭和期における水際立地の料亭と水辺空間利用との係わりに関する調査研究、環境情報科学学術研究論文集 31、pp.161-166、2017.11.
- ◆畔柳昭雄：中国安徽省宏村の水系システムが生み出す集落空間の構成に関する研究、日本建築学会計画系論文集 第83巻 第745号、pp.417-426、2018.3.
- ◆畔柳昭雄 他1名：宮古市重茂南地区の漁業集落に見る津波被災後の住民生活に関する調査、沿岸域学会誌 Vol.30 No.4、2018.3.

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆加藤千尋・畔柳昭雄・菅原遠：昭和初期の東京市庁舎建設構想と臨海部埋立地の様相 - 1930年代に見られた市庁舎の月島埋立地建設案に着目して、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集 No.30 論文番号 6-2、2017.7.
- ◆飯塚智哉・畔柳昭雄・菅原遠：言い伝えにみる洪水被害軽減を図るための危機管理のあり方に関する調査研究、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.81-82、2017.9.
- ◆新井侑子・畔柳昭雄・菅原遠：江戸城下町における料亭の立地特性に関する調

- 査研究、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.693-694、2017.9.
- ◆宮川駿也・畔柳昭雄・菅原遠：海洋建築物に見る機能・用途の変化と周辺海域の利用状況に関する調査研究、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.1-2、2017.9.
- ◆土橋大輔・畔柳昭雄・菅原遠：海洋建築物の機能・用途および設置形態と基礎構造形式に関する調査研究 - 2000年以降に建設された海洋建築物を対象として、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.3-4、2017.9.
- ◆畔柳昭雄：浮体式構造物を用いた水域空間の利用に関する調査研究 - 海洋空間の有効利用のための超大型浮体式構造物に関する調査研究 -、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.5-6、2017.12.
- ◆土橋大輔・佐藤耕里・畔柳昭雄・菅原遠：米国における水上住居の現状と法規制に関する調査研究 - その1 カルフォルニア州マリナー郡を対象として、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.633-634、2017.12.
- ◆佐藤耕里・土橋大輔・畔柳昭雄・菅原遠：米国における水上住居の現状と法規制に関する調査研究 - その2 ワシントン州シアトル市を対象として、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.635-636、2017.12.
- ◆芳西優汰・石川弘英・畔柳昭雄・菅原遠：漁港背後の土地利用の変遷に関する調査研究 - 小田原漁港を対象として、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.637-638、2017.12.
- ◆吉澤果南・小海諄・畔柳昭雄・菅原遠：水を用いた建築設計の方法論に関する研究 - 安藤忠雄と谷口吉生の建築作品を対象として、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.683-684、2017.12.
- ◆中原咲来・畔柳昭雄・菅原遠：隅田川沿いに立地する飲食店舗の空間的特徴に関する研究、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.685-686、2017.12.
- ◆田中孝登・畔柳昭雄・菅原遠：全国の屋台村に見る空間的特徴に関する研究、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.687-688、2017.12.
- ◆加藤千尋・滝口日向子・畔柳昭雄・菅原遠：近代以降の東京湾にみられる埋立地造成の実施要因 - その1 明治期の東京沿岸域を対象として、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.689-690、2017.12.
- ◆滝口日向子・加藤千尋・畔柳昭雄・菅原遠：近代以降の東京湾にみられる埋立地造成の実施要因 - その2 近代の川崎臨海地域に於ける埋立地造成計画主体の変遷 -、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.691-692、2017.12.
- ◆大槻愛・畔柳昭雄・菅原遠：金魚養殖業に見る地域特性としての水との関係性、第14回環境情報科学ポスターセッション、2017.12.

### 著書・執筆等

- ◆畔柳昭雄 他5名：海洋空間を拓くメガフロートから海上都市へ、成山堂書店、2017.3.
- ◆畔柳昭雄 他1名：第2版海洋性レクリエーション施設 - 計画とデザイン・クルーズ観光からダイビングスポットまで、技報堂出版、2017.12.

## 教員研究業績 研究室活動業績

### 作品・インスタレーション等

- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：一瞬亭 一茶事到来一、小松川千本桜まつり、2017.4.
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：Bamboo Pergola、ジャパンビーチゲームズフェスティバル 2017、2017.5.
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：Bamboo Pergola、TACHIHI BEACH、2017.7.
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：Bamboo Pergola、神奈川県葉山町一色海岸、2017.8.

### 学外活動（講演・講師等）

- ◆ 畔柳昭雄：中国山東省濰坊市中心地区交通整備検討委員会、2017.5
- ◆ 畔柳昭雄：中国青島理工大学・青島都市計画学会「時代の変化と都市の水辺」、講演、2017.5
- ◆ 畔柳昭雄：法政大学大学院政策創造研究科 都市空間論「都市の水辺」講義、2017.5
- ◆ 畔柳昭雄：香川大学工学部安全システム建設工学科海域システム講座「海洋プロジェクト」、特別招聘講師、2017.6
- ◆ 畔柳昭雄：竹製「日よけ」で涼 一日大生ら製作 立飛駅前に一、読売新聞 地域欄、2017.7.11.
- ◆ 畔柳昭雄：竹の日よけ海水浴涼しげ 一日大研究室 葉山の設置一、読売新聞 地域欄、2017.8.4.
- ◆ 畔柳昭雄：海辺の若者はいずこへ、日本経済新聞、2017.8.26.
- ◆ 菅原遼：第1回水辺荘 Lab.「都橋商店街ビルの建設経緯と近年的動向」、講演、2017.9.
- ◆ 菅原遼：日本都市計画学会：2017年度(第52回)学術研究論文発表会・ワークショップ「都市の水辺における公私計画・マネジメントのあり方」、講演、2017.11.
- ◆ 畔柳昭雄：戸田建設戸田育英財団「水屋・水塚 水防の知恵とすまい」、講演、2017.12
- ◆ 菅原遼：Reserve or Transform Local Heritage and Urban Development in Yokohama and Elsewhere「Construction History and Spatial Features of Miyakobashi Shopping Center Building」、講演、2017.12.

### 学外活動

#### 【畔柳昭雄】

- ◆ 日本建築学会・水辺の公私計画検討小委員会 委員
- ◆ 日本建築学会 海洋建築本委員会委員 委員 海洋建築フィールド小委員会 委員
- ◆ 環境情報科学センター企画委員会 委員
- ◆ 環境情報科学センター賞選考委員会 委員
- ◆ 海洋工学会 理事
- ◆ 日本水産工学会 評議員/学協会等連絡担当委員
- ◆ 神奈川県港湾審議会 会長 2017.9.まで
- ◆ 千葉県魅力ある建設事業推進協議会 委員

#### 【菅原遼】

- ◆ 日本建築学会・水辺の公私計画検討小委員会 委員
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会津波建築システム小委員会 委員
- ◆ 日本沿岸域学会・企画運営委員会 委員
- ◆ 一般社団法人水辺荘 理事

### 海外出張・海外調査

- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：「OMAE2017」における研究発表、ノルウェー・トロンハイム、2017.6.26-27.
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：港湾都市における水辺空間調査、デンマーク・コペンハーゲン、2017.6.28-30.
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：フィリピン・セブ市近傍における水辺環境整備事例の現地調査、フィリピン・セブ、2017.7.27-30.
- ◆ 菅原遼：Brooklyn Bridge Parkの現地調査、アメリカ・ニューヨーク、2017.8.11-17.
- ◆ 畔柳昭雄：科研費による中国広東省開平楼・水郷鎮の現地調査、2017.12.9-15.
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：韓国海洋大学校との研究交流会開催、韓国・釜山、2018.1.15-17.
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：トンレサップ湖における水上集落調査、カンボジア・シェムリアップ、2018.2.22-26.
- ◆ 菅原遼：シンガポールにおける水辺開発調査、シンガポール・シンガポール、2018.3.16-22.

### 研究助成・受託研究

- ◆ 畔柳昭雄：2017年度科研費・基盤研究（C）（一般）、洪水常襲地帯における水防建築の空間的設えと生活様式のあり方に関する研究、2014.4.-2018.3.
- ◆ 畔柳昭雄：研究奨励寄付金 戸田育英財団 東京臨海部における埋立て計画に関する調査研究、2017.8.-2018.3.
- ◆ 畔柳昭雄：平成29年度理工学部研究助成金「遠隔離島における住民生活の自立性を支える地域社会形成と生態系のあり方に関する調査研究」、2017.4.-2018.3.
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：研究奨励寄付金、都市の水辺の公私計画論の構築に向けた実証的研究、公益財団法人日本都市計画学会、2017.4.-2020.3.
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：2017年度科学研究費・基盤研究（C）、持続可能な都市空間のための公私計画・マネジメント論の構築及びデザイン手法、日本学術振興会、2017.4.-2020.3
- ◆ 菅原遼：研究奨励寄付金、屋台文化にみる公私連携による空間利用と地域連携のあり方に関する研究、公益財団法人大林財団、2017.3.-2018.3
- ◆ 菅原遼：研究奨励寄付金、都市の水辺利用を支える「親水型コミュニティ」の活動展開とその実態調査、日本生活学会、2017.6.-2018.3
- ◆ 菅原遼：2017年度科学研究費・若手研究（B）、水辺の市民開放に向けた空間利用と地域連携のあり方に関する研究、日本学術振興会、2017.4.-2019.3
- ◆ 菅原遼：受託研究、国内の洋上風力発電事業における法整備状況の調査、株式会社オリエンタルコンサルタンツ、2017.12.-2018.6

## 山本研究室

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆ 狩野悠介・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：防災拠点としての「みなとオアシス」のあり方に関する調査研究、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集 CD-ROM、セッション 1-3、2017.7
- ◆ 鈴木一帆・山本和清・近藤健雄・宮崎渉・城田大輔：漁村集落における要援護者の高台移転に関する基礎的研究 一居住地域からの避難距離と津波浸水域境界線との比較検討一、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集 CD-ROM、セッション 13-1、2017.7
- ◆ 村上研・山本和清・近藤健雄・宮崎渉・狩野悠介：東日本大震災を教訓とした防災教育実施内容の変化に関する調査研究、日本建築学会 2017 年度大会（中国）建築デザイン発表梗概集 DVD、10006（pp.11-12）、2017.9
- ◆ 西野太朗・山本和清・近藤健雄・宮崎渉・狩野悠介：高齢者福祉施設の BCP 策定に関する基礎的研究 一静岡県沿岸部の高齢者福祉施設を対象として一、日本建築学会 2017 年度大会（中国）建築デザイン発表梗概集 DVD、10008（pp.15-16）、2017.9
- ◆ 阿久津研介・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：津波災害時における外国人観光

- 客の避難情報ニーズに関する調査研究—神奈川県・鎌倉市を対象地として—、第 61 回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM、J-44（pp.693-694）、2017.12
- ◆ 三岡直・山本和清・近藤健雄・宮崎渉・花井健太：東日本大震災時における避難所の生活実態に関する調査研究 一宮城県 4 市町の小・中学校で開設された避難所を対象として—、第 61 回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM、J-45（pp.695-696）、2017.12
- ◆ 金子拓矢・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：平常時における地域防災指導員のあり方に関する調査研究 一地域防災指導員の養成を行っている宮城県・静岡県を対象地として—、第 61 回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM、J-46（pp.697-698）、2017.12
- ◆ 福島功理・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：プレジャーボートの利用実態から見る利用率向上に関する研究、第 61 回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM、J-47（pp.699-700）、2017.12
- ◆ 赤塚耕平・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：夜間における津波避難体制の在り方に関する基礎的研究 一南海トラフ沖地震津波対策特別警戒区域を対象とし



## 教員研究業績 研究室活動業績

てー、第61回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM、J-48 (pp.701-702)、2017.12

- ◆川原康之介・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：東京オリンピックに向けたラグジュアリー・ヨット誘致の可能性に関する調査研究、第61回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM、J-48 (pp.703-704)、2017.12
- ◆齋藤晴香・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：防災船着場の利用における管理者と利用者の意識の差に関する研究、第61回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM、J-49 (pp.705-706)、2017.12
- ◆山田剛史・山本和清・近藤健雄・宮崎渉・花井健太：海水浴場における津波避難対策の実態に関する研究 一水陸両用車いすの設置している海水浴場に着目してー、第61回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM、J-50 (pp.707-708)、2017.12
- ◆小林圭吾・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：サーフィンを活用した地域振興

に関する基礎的研究 一千葉県長生郡一宮町を対象地としてー、第61回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM、J-51 (pp.709-710)、2017.12

### 学外活動

- ◆日本福祉のまちづくり学会・身体と空間特別研究委員会 委員
- ◆千葉県・千葉県建設工事総合評価委員会 委員
- ◆東京湾の環境をよくするために行動する会 監事
- ◆(一社) みなと船橋振興協会 理事
- ◆東京湾再生官民連携フォーラム・江戸前ブランドPTメンバー
- ◆OCEANS'18 MTS/IEEE Kobe/Techno-Ocean 2018(OTO'18)、投稿論文査読者
- ◆日本沿岸域学会 投稿論文査読者

## 北嶋研究室

### 審査付論文

- ◆波田雅也・村井克綺・竹内健一・北嶋圭二：層間変形角 1/200rad. まで降伏しない「折返し式ブレース」の適用事例、日本建築学会技術報告集、Vol.23、No.55、pp.885-890、2017.10
- ◆鈴木社・梁川幸盛・北嶋圭二・松井智哉・稲井栄一：段階的耐力喪失解析による既存 RC 系建物の二次壁評価、日本建築学会技術報告集、Vol.23、No.55、pp.845-849、2017.10
- ◆歌田航己・天羽祥太・北嶋圭二・中西三和：等価線形化法による既存中層 RC 造系建物の制震補強設計法、コンクリート工学会 コンクリート工学年次論文集、Vol.39、No.2、pp.7-12、2017.7

### 口頭発表・ポスター発表

#### 日本地震工学会

- ◆沖野貴久・関口聖也・原田耕成・北嶋圭二・中西三和・安達洋：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の応答性状に関する研究、日本地震工学会 第13回年次大会梗概集、pp.1-10、2017.11

#### 日本建築学会

- ◆波田雅也・高村皓輝・山本圭太・村井克綺・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しブレース構造建物の構造特性に関する（その1 折返しブレース構造建物の基本性能）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.1195-1196、2017.8
- ◆高村皓輝・波田雅也・山本圭太・村井克綺・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しブレース構造建物の構造特性に関する（その2 折返しブレース構造建物の試設計）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.1197-1198、2017.8
- ◆山本圭太・波田雅也・高村皓輝・村井克綺・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しブレース構造建物の構造特性に関する（その3 ブレース V 型配置時と片掛け配置時の比較検討）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.1199-1200、2017.8
- ◆村井克綺・波田雅也・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：円形鋼管を用いた折返しブレースの実大加力実験、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.1201-1202、2017.8
- ◆沖野貴久・関口聖也・原田耕成・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の加振実験（その3 加振実験の再現性確認のための時刻歴応答解析）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.969-970、2017.8
- ◆原田耕成・関口聖也・沖野貴久・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の加振実験（その4 時刻歴応答解析による応答性状の検討）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.971-972、2017.8
- ◆関口聖也・原田耕成・沖野貴久・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の加振実験（その5 剛性偏心させた滑り基礎構造建物の加振実験）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.973-974、2017.8
- ◆中西三和・齋藤純毅・齋藤大樹・竹本幸弘・北嶋圭二・安達洋：あと施工せん断補強筋を施した RC 梁のせん断補強効果に関する研究（その1 実験概要）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.63-64、2017.8
- ◆齋藤純毅・齋藤大樹・竹本幸弘・北嶋圭二・中西三和・安達洋：あと施工せん断補強筋を施した RC 梁のせん断補強効果に関する研究（その2 実験結果）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.65-66、2017.8

- ◆齋藤大樹・齋藤純毅・竹本幸弘・北嶋圭二・中西三和・安達洋：あと施工せん断補強筋を施した RC 梁のせん断補強効果に関する研究（その3 実験結果の考察）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.67-68、2017.8
- ◆渡邊瑞穂・柴田明奈・中西三和・北嶋圭二・安達洋：津波漂流物の衝突を想定した RC 造柱の挙動に関する実験的研究（その1 実験概要）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.37-38、2017.8
- ◆柴田明奈・渡邊瑞穂・中西三和・北嶋圭二・安達洋：津波漂流物の衝突を想定した RC 造柱の挙動に関する実験的研究（その2 実験結果）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.39-40、2017.8
- ◆横澤輝・末武紘一・中西三和・北嶋圭二・安達洋：氷海域における海洋構造物に作用する氷荷重に関する実験的研究（その1 低温実験室における尿素氷の作製法と物性試験及び貫入試験概要）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.59-60、2017.8
- ◆末武紘一・横澤輝・中西三和・北嶋圭二・安達洋：氷海域における海洋構造物に作用する氷荷重に関する実験的研究（その2 尿素模型氷の物性と貫入試験結果）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.61-62、2017.8
- ◆小山大樹・新保拓実・北嶋圭二・名取祥一・山崎康雄・波田雅也・染谷優太・石渡康弘：レンズダンパーを取り付けた RC 造間柱の構造性能に関する実験的研究（その1 研究目的および実験概要）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.575-576、2017.8
- ◆新保拓実・小山大樹・北嶋圭二・山崎康雄・村井克綺・山崎信宏・三塩洋一・大澤健：レンズダンパーを取り付けた RC 造間柱の構造性能に関する実験的研究（その2 実験結果および検討）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.577-578、2017.8
- ◆島田拓実・菅智輝・朝比奈大輔・北嶋圭二・中西三和・安達洋：セメント材料の破面形状と力学的特性の関係性に関する実験的研究（その1 実験概要）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.207-208、2017.8
- ◆菅智輝・島田拓実・朝比奈大輔・北嶋圭二・中西三和・安達洋：セメント材料の破面形状と力学的特性の関係性に関する実験的研究（その2 破面解析結果）、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.209-210、2017.8
- ◆土田亮章・波田雅也・竹内健一・上田英明・北嶋圭二：制震補強工事前後の既存建物の常時微動測定結果、日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集、pp.271-272、2017.8

#### 理工学部学術講演会

- ◆沖野貴久・関口聖也・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の応答性状に関する研究（その4 時刻歴応答解析による応答性状の検討）、第61回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.53-54、2017.12
- ◆関口聖也・沖野貴久・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の応答性状に関する研究（その5 剛性偏心させた滑り基礎構造建物の加振実験）、第61回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.55-56、2017.12
- ◆林晴佳・土田亮章・波田雅也・竹内健一・上田英明・北嶋圭二：制震ブレース補強工事前後の既存建物の常時微動測定結果、第61回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.57-58、2017.12
- ◆歌田航己・森本竜・北嶋圭二・中西三和・安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その1 制震補強設計法の概要と各階のダンパー量の算定方法）、第61回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.67-68、2017.12

## 教員研究業績 研究室活動業績

- ◆森本竜・歌田航己・北嶋圭二・中西三和・安達洋：等価線形化法による既存 RC 造建物の制震補強設計法に関する研究（その2 検討対象建物の構造特性と補強設計スタディー）、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.69-70、2017.12
- ◆波田雅也・村井克綺・竹内健一・高村皓輝・山本圭太・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しブレース付き鉄骨造建物の構造特性に関する研究（その1 折返しブレース構造建物の基本性能）、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.71-72、2017.12
- ◆高村皓輝・山本圭太・波田雅也・村井克綺・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しブレース付き鉄骨造建物の構造特性に関する研究（その2 折返しブレース構造建物の試設計）、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.73-74、2017.12
- ◆山本圭太・高村皓輝・波田雅也・村井克綺・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しブレース付き鉄骨造建物の構造特性に関する研究（その3 ブレース V 型配置時と片掛け配置時の比較検討）、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.75-76、2017.12
- ◆村井克綺・波田雅也・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：円形鋼管を使用した折返しブレースの実大加力実験、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.77-78、2017.12
- ◆加賀山陽平・草川和広・横澤輝・北嶋圭二・中西三和・安達洋：多数回繰返し載荷を受ける RC 造建物の十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究（その1 実験概要）、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.79-80、2017.12
- ◆草川和広・加賀山陽平・横澤輝・北嶋圭二・中西三和・安達洋：多数回繰返し載荷を受ける RC 造建物の十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究（その2 実験結果）、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.81-82、2017.12
- ◆横澤輝・草川和広・加賀山陽平・北嶋圭二・中西三和・安達洋：多数回繰返し載荷を受ける RC 造建物の十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究（その3 実験結果と検討）、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.83-84、2017.12
- ◆小山大樹・新保拓実・北嶋圭二・中西三和・安達洋：レンズダンパーを組み込んだ RC 造間柱の水平加力実験（その1 実験概要）、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.85-86、2017.12
- ◆新保拓実・小山大樹・北嶋圭二・中西三和・安達洋：レンズダンパーを組み込んだ RC 造間柱の水平加力実験（その2 実験結果）、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.87-88、2017.12
- ◆渡邊瑞穂・柴田明奈・北嶋圭二・中西三和・安達洋：津波漂流物の衝突を想定した RC 造間柱の挙動に関する実験的研究（その1 実験概要）、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、海洋建築部会、pp.643-644、2017.12
- ◆柴田明奈・渡邊瑞穂・北嶋圭二・中西三和・安達洋：津波漂流物の衝突を想定した RC 造間柱の挙動に関する実験的研究（その2 実験結果）、第 61 回日本大学理工学部学術講演会、海洋建築部会、pp.645-646、2017.12

### 著書・執筆等

- ◆北嶋圭二・秦一平 他：特集号「平成 28 年（2016 年）熊本地震被害調査報告」、日本大学理工学部理工学研究所「研究ジャーナル」第 140 号、2017.12.
- ◆北嶋圭二：特集「困ったときに役立つ耐震補強の手引き《ダンパーを設置して補強する場合の問題点》」、建築技術、No.813、2017.10.

### 受賞

- ◆波田雅也：ダイス・ロッド式摩擦ダンパーを用いた橋梁模型の振動台実験、日本コンクリート工学会「第 39 回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞」、2017.7.
- ◆新保拓実：レンズダンパーを取り付けた RC 造間柱の構造性能に関する実験的研究（その2 実験結果および検討）、2017 年度日本建築学会大会（中国）学術講演会 構造部門（振動）「若手優秀発表賞」、2017.9.

### 学外活動（講演・講師等）

#### 【教授 北嶋圭二】

- ◆北嶋圭二：制振設計と事例、日本免震構造協会「中国山東省技術者向け免制振技術講習会」、2017.6.19（講師）

- ◆北嶋圭二：Research on Earthquake Engineering at Kitajima Laboratory and Seismic Evaluation and Retrofit Method of RC Buildings in Japan, Seminar on Earthquake Engineering（地震工学セミナー）、PICE（フィリピン土木学会）、Cebu, Phillipine（セブ、フィリピン）、2017.7.29（招待講演）
- ◆北嶋圭二：RC 造建物の地震時挙動と制震構造、山形構造設計研究会第 197 回例会 講演会、2017.9.23（招待講演）
- ◆北嶋圭二：熊本地震被害と RC 造建物の地震時挙動、千葉県特定行政庁・指定確認検査機関 連絡協議会議、共同セミナー、2018.1.30（招待講演）

#### 【特任教授 中西三和】

- ◆中西三和：過去の地震災害と教訓 十勝沖地震から熊本地震へ、山形構造設計研究会、第 197 回例会 講演会、2017.9.23（招待講演）

### 学外活動

#### 【教授 北嶋圭二】

- ◆日本建築学会 代議員
- ◆日本建築学会 構造委員会鉄筋コンクリート構造運営委員会 委員
- ◆日本建築学会 既存中層 RC 建物の耐震性能評価指針作成小委員会 幹事
- ◆日本建築学会 既存中層 RC 建物の耐震性能評価指針作成小委員会評価例作成 WG 主査
- ◆日本建築学会 等価線形化法に基づく地震応答評価法 WG 委員
- ◆日本建築学会 海洋建築エンジニアリング小委員会 委員
- ◆日本建築学会関東支部 地震災害調査連絡会 委員
- ◆日本建築学会関東支部 講習会用構造テキスト委員会免震制振構造の設計執筆 WG 委員
- ◆日本免震構造協会 技術委員会 委員
- ◆日本免震構造協会 制震部材品質基準小委員会 委員
- ◆日本免震構造協会 制震部材品質基準小委員会摩擦ダンパーWG 委員
- ◆日本免震構造協会 パッシブ制振評価小委員会制振普及WG 委員
- ◆日本免震構造協会 パッシブ制振評価小委員会基準対応WG 委員
- ◆日本免震構造協会 修士論文賞審査委員会 委員
- ◆構造調査コンサルティング協会 構造物評定委員会 委員
- ◆ハウスプラス確認検査 耐震診断・耐震改修等評定委員会 委員
- ◆ハウスプラス確認検査 高層評定委員会 委員
- ◆日本建築検査協会 耐震判定委員会 委員
- ◆日本建築検査協会 高層評定委員会 委員
- ◆日本建築検査協会 指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会 委員

#### 【特任教授 中西三和】

- ◆日本建築学会 海洋建築本委員会 委員
- ◆日本建築学会 海洋建築企画小委員会 委員
- ◆日本建築学会 震災報告書編集委員会 委員
- ◆日本建築学会 災害委員会 委員
- ◆日本建築学会関東支部 地震災害調査連絡会 委員
- ◆国際確認検査センター 評価委員会 委員
- ◆耐震技術広域連携協議会 耐震構造性能判定委員会 委員
- ◆日本建築検査協会 指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会 委員

### 海外出張・海外調査

- ◆北嶋圭二：フィリピン土木学会：地震工学セミナー（PICE：Seminar on Earthquake Engineering）、2017.7.27-31

### 研究助成・受託研究

- ◆北嶋圭二：委託研究、青木あすなろ建設（株）、合理的な耐震構造システムに関する研究開発
- ◆北嶋圭二・中西三和：委託研究、（株）巴技研、L 形断面柱の圧縮実験
- ◆北嶋圭二：研究奨励寄付金、日本鑄造（株）ほか、レンズ型制震ダンパーの技術開発
- ◆北嶋圭二：研究奨励寄付金、エモーションズ（株）、壁面取付金具の耐震実験研究
- ◆北嶋圭二：研究奨励寄付金、（株）東京ソイルリサーチ、既存集合住宅への制震補強工法適用の研究

## 教員研究業績 研究室活動業績

### 近藤研究室

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆守川耀・近藤典夫：低スループトン数での直列2角柱正方形角柱のギャロッピング振動解析、日本建築学会大会学術講演会梗概集 CD-ROM、2017.8.
- ◆横山侑弥・近藤典夫：単一角柱の流力振動における3次元渦構造について、日本建築学会大会学術講演会梗概集 CD-ROM、2017.8.
- ◆呉翹楚・近藤典夫：広い間隔で配置された並列2円柱の空力振動に関する数値解析、日本建築学会大会学術講演会梗概集 CD-ROM、2017.8.
- ◆横山侑弥・近藤典夫：単一角柱のギャロッピング振動及び後流渦構造について、平成29年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 CD-ROM、2017.12.
- ◆新宮清志・近藤典夫他：シェル・空間構造の減衰研究の過去・現在・将来展望、第64階理論応用力学講演会、2017.8.

#### 学外活動

- ◆日本建築学会 構造委員会 シェル・空間構造運営委員会 委員
- ◆日本建築学会 構造委員会 応用力学運営委員会 委員
- ◆日本建築学会 空間構造における連成・接触問題小委員会 幹事
- ◆日本建築学会 津波建築システム小委員会 委員
- ◆日本建築学会 不整形構造物のモデリング検討委員会 委員
- ◆日本機械学会 計算力学講演会 オーガナイザー

#### 研究助成・受託研究

- ◆科学研究補助金 基盤研究(C)：くい違い2円柱の流力振動および作用する流体力特性に関する数値的研究

### 福井研究室

#### 審査付論文

- ◆福井剛・内田順子：ULTIMATE SHEAR STRENGTH OF POST-TENSIONED PRECAST PRESTRESSED CONCRETE COLUMNS USING DEFORMED PRESTRESSING STEEL BARS, 42th Conference on Our World in Concrete & Structures Conference, pp.175-184,2017.9.
- ◆姜建毅・福井剛：SHEAR STRENGTH OF MORTAR JOINTS SUBJECTED TO BENDING MOMENT, SHEAR FORCE AND AXIAL FORCE CONCURRENTLY IN PRECAST PRESTRESSED CONCRETE COLUMNS, 42th Conference on Our World in Concrete & Structures Conference, pp.229-235,2017.9.
- ◆畢成林・福井剛：EFFECTS OF VERTICAL LOAD ON SEISMIC BEHAVIOR OF PRESTRESSED CONCRETE BEAMS, 42th Conference on Our World in Concrete & Structures Conference, pp.167-174,2017.9.

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆山田泰之・福井剛・浜原正行・櫻井琢己・大川俊・後藤翔太：プレキャストPC柱圧着継目のせん断耐力の算定方法(その1 実験概要) 日本建築学会大会(広島)学術講演梗概集, pp.767-768, 2017.9.
- ◆後藤翔太・大川俊・山田泰之・福井剛・櫻井琢己・浜原正行：プレキャストPC柱圧着継目のせん断耐力の算定方法(その2 設計手法の提案) 日本建築学会大会(広島)学術講演梗概集, pp.769-770, 2017.9.
- ◆大塚夕・矢田光輝・浜原正行・福井剛・大川俊・山田泰之：正負繰り返し水平荷重を受けるRC骨組の挙動に及ぼす鉛直荷重の影響(その1 解析概要および結果)、日本建築学会大会(広島)学術講演梗概集, pp.771-772, 2017.9.
- ◆矢田光輝・大塚夕・浜原正行・福井剛・大川俊・山田泰之：正負繰り返し水平荷重を受けるRC骨組の挙動に及ぼす鉛直荷重の影響(その2 解析結果) 日本建築学会大会(広島)学術講演梗概集, pp.773-774, 2017.9.
- ◆石井誠士・浜原正行・福井剛・畢成林・姜建毅：長期荷重がPC梁の地震時挙動に及ぼす影響に関する実験的研究(その2 実験結果)、日本建築学会大会(広島)学術講演梗概集, pp.775-776, 2017.9.
- ◆森田明・岩見遼平・染谷俊章・福井剛：集材小梁にプレストレスを導入した床組システムの提案、日本建築学会大会(広島)学術講演梗概集, pp.761-762, 2017.9.

#### 著書・執筆等

- ◆福井剛：プレストレストコンクリート構造の設計—学びやすい構造設計—、日本建築学会関東支部
- ◆福井剛：PC建築特集、セメント新聞、2017.05.15
- ◆福井剛：解説 日本建築学会「プレストレストコンクリート構造の設計—学び

やすい構造設計シリーズ」の発刊について、プレストレストコンクリート59巻第4号、プレストレストコンクリート工学会

#### 学外活動(講演・講師等)

- ◆福井剛：日本建築学会関東支部、プレストレストコンクリート構造の設計—学びやすい構造設計—講習会(東京)、2017.09.27
- ◆福井剛：日本建築学会関東支部、プレストレストコンクリート構造の設計—学びやすい構造設計—講習会(横浜)、2017.10.12
- ◆福井剛：日本建築学会関東支部、プレストレストコンクリート構造の設計—学びやすい構造設計—講習会(大阪)、2017.10.20
- ◆福井剛：日本建築構造技術者協会九州支部、プレストレストコンクリート構造の設計—学びやすい構造設計—講習会(博多)、2017.12.08

#### 学外活動

##### 【教授 福井剛】

- ◆日本建築学会 プレストレストコンクリート構造運営委員会 幹事
- ◆日本建築学会 プレストレストコンクリート規準指針小委員会 委員
- ◆日本建築学会 プレストレストコンクリート常時荷重設計法小委員会 主査
- ◆日本建築学会 プレストレストコンクリート材料・施工WG 委員
- ◆日本建築学会 2016年熊本地震PC建物被害調査WG 委員
- ◆日本建築学会 関東支部 役員 学術幹事
- ◆日本建築学会 関東支部 研究運営委員会 幹事
- ◆日本建築学会 関東支部 優秀研究報告集 若手優秀研究報告賞選考部会 部長
- ◆日本建築学会 関東支部 地震災害調査運営委員会 委員
- ◆日本建築学会 関東支部 大会委員会 委員
- ◆日本建築学会 関東支部 PC建築専門研究委員会 委員
- ◆日本建築学会 関東支部 講習会用構造テキスト作成委員会 委員
- ◆日本建築学会 関東支部 講習会用構造テキスト委員会 PC構造の設計改定WG 主査
- ◆プレストレスト工学会 コンクリート構造診断士試験問題小委員会 委員
- ◆プレストレスト工学会 コンクリート構造診断士技術講習会小委員会 委員

#### 研究助成・受託研究

- ◆福井剛：研究奨励寄付金、PC梁のせん断終局強度評価式の適用範囲拡大、オリエンタル白石株式会社
- ◆福井剛：受託研究、角形鋼管におけるボルト接合方法の開発、大成建設株式会社
- ◆福井剛：受託研究、プレストレスト木質構造の力学性状、株式会社建研



## 居駒・惠藤研究室

## 審査付論文

- ◆ 惠藤浩朗・佐藤千昭・増田光一・居駒知樹・久保田充・岸田智之・敷田曜：石炭の積載状態にもなる大型石炭貯蔵浮体の振動特性に関する基礎的研究、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、Vol.73、No.2、p.725-730、2017.6
- ◆ Hiroaki Eto, Chiaki Sato, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, Mitsuru Kubota, and Tomoyuki Kishida : Effect of Coal Loading Conditions on Elastic Behavior of Large-Scale Floating Transshipment Station (LFTS), Proceedings of the ASME 2017 36th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2017, June 25-30, 2017, Trondheim, Norway, OMAE2017-61897, 2017.6
- ◆ Kazuki Murata, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, Hiroaki Eto, Yasuhiro Aida, and Tomoyuki Kishida : A Fundamental Research on Countermeasure of Disaster Mitigation and Impact Force to Cause Drifting Ship, Proceedings of the ASME 2017 36th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2017, June 25-30, 2017, Trondheim, Norway, OMAE2017-62178, 2017.6
- ◆ Tomoki Ikoma, Koichi Masuda, and Hiroaki Eto : Characteristics of Motion Behaviors and the Primary Conversion of a Floating OWC Type WEC with Projecting-Walls, Proceedings of the ASME 2017 36th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2017, June 25-30, 2017, Trondheim, Norway, OMAE2017-62011, 2017.6
- ◆ Tomoki Ikoma, Koichi Masuda, Hiroaki Eto, Kazuki Murata, Daisuke Kaneko, Masatoshi Ishibashi : A Study on Development of Dynamic Tsunami Hazard Map for Mooring Vessels in Port, Proceedings of the ASME 2017 36th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2017, June 25-30, 2017, Trondheim, Norway, OMAE2017-62186, 2017.6
- ◆ 居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗・渋谷省吾：二重消波ケーソンの振動水柱型波力発電装置としての性能に関する研究、沿岸域学会誌 2017 Vol.30、No.3、2017.12

## 口頭発表・ポスター発表

- ◆ 石橋榮稔・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・村田一城・池上正春：港湾津波ハザード・被害予測マップの開発に関する基礎的研究－港湾計画実施後の津波被害予測について－、日本船舶海洋工学学会講演会論文集 第24号、2017S-OS2-2、pp.57-62、2017.5
- ◆ 惠藤浩朗・中島麻悠美・居駒知樹・増田光一・敷田曜：大型石炭貯蔵浮体システムの運動応答特性と荷役稼働率に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集 第24号、2017S-GS18-3、pp.693-697、2017.5
- ◆ 戎崎俊一・惠藤浩朗・村田一城：地震に伴う海底地滑りによる津波被害の拡大、日本船舶海洋工学学会講演会論文集 第24号、2017S-OS2-4、pp.65-70、2017.5
- ◆ 久保田充・惠藤浩朗・佐藤千昭・居駒知樹・増田光一・岸田智之：大型石炭貯蔵浮体の振動特性に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集 第24号、2017S-GS17-6、pp.681-685、2017.5
- ◆ 石橋榮稔・増田光一・居駒知樹・池上正春・惠藤浩朗：港湾における海域津波ハザードマップの開発に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集 No.30、1-2、2017.7
- ◆ 岩松幸花・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗・二瓶泰範：浮体式垂直軸型水車の浮体動揺に関する実験的研究、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集 No.30、2-1、2017.7
- ◆ 居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一・木原一禎・渋谷省吾：OWC 型波力発電装置による消波ケーソンの利用の可能性に関する考察、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集 No.30、2-3、2017.7
- ◆ 松岡晃弘・増田光一・居駒知樹・相田康洋・惠藤浩朗・池上正春：MPS 法による津波漂流物の衝突力算定に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集 No.30、9-2、2017.7
- ◆ 金子大介・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・池上正春：津波中の岸壁係留船舶の係留索破断に関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集 No.30、9-3、2017.7

- ◆ 石橋榮稔・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗：防波堤の破堤状態の変化による浸水被害に関する基礎的研究、日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.21-22、10011、2017.9
- ◆ 惠藤浩朗・宮本卓次郎・居駒知樹・増田光一：海洋再生可能エネルギーによる水素生産・貯蔵システムのコンセプトと経済性に関する基礎的研究、日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.25-26、10013、2017.9
- ◆ 中島麻悠美・惠藤浩朗・居駒知樹・増田光一・敷田曜：大型石炭貯蔵浮体システムの運動応答特性と荷役稼働率に関する基礎的研究、日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.27-28、10014、2017.9
- ◆ 渋谷省吾・居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一：二重消波ケーソンを利用した OWC 型波力発電装置の一次変換特性における波高の影響に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.29-30、10015、2017.9
- ◆ 李賢珠・惠藤浩朗・居駒知樹・増田光一：ブラジル北東部におけるジャッキアップ式抛点港の暗転性に関する基礎的研究、日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.31-32、10016、2017.9
- ◆ 宮下奈々恵・増田光一・惠藤浩朗・居駒知樹：市街地の建築物に作用する津波波力特性に関する基礎的研究、日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.33-34、10017、2017.9
- ◆ 増田光一・村田一城・惠藤浩朗・居駒知樹：建築物に作用する津波漂流物の衝突シミュレーションに関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.35-36、10018、2017.9
- ◆ 居駒知樹・惠藤浩朗・二瓶泰範・増田光一：ムーンプールを有する洋上風力発電用浮体の波浪中応答特性について、日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.49-50、10025、2017.9
- ◆ 飯塚功二・惠藤浩朗・佐藤千昭・居駒知樹・増田光一・久保田充・岸田智之：大型石炭貯蔵浮体の応答評価に関する基礎的研究 (その4 大型石炭貯蔵浮体の構造強度の検討) 日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.51-52、10026、2017.9
- ◆ 久保田充・惠藤浩朗・佐藤千昭・居駒知樹・増田光一・岸田智之：大型石炭貯蔵浮体の応答評価に関する基礎的研究 (その5 石炭積載状態に応じた固有振動解析) 日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.53-54、10027、2017.9
- ◆ 岸田智之・惠藤浩朗・佐藤千昭・居駒知樹・増田光一・久保田充：大型石炭貯蔵浮体の応答評価に関する基礎的研究 (その6 石炭積載状態に応じた波浪中弾性応答解析) 日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.55-56、10028、2017.9
- ◆ 敷田曜・惠藤浩朗・佐藤千昭・居駒知樹・増田光一・中島麻悠美：大型石炭貯蔵浮体の長周期変動波漂流力による動揺特性に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国)、pp.57-58、10029、2017.9
- ◆ 増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・大野正人・金子大介・石橋榮稔：港湾内の係留船舶津波ハザードマップ開発及び津波被害低減策に関する研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集 第25号、2017A-OS1-2、pp.3-6、2017.11
- ◆ 岩松幸花・居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一・二瓶泰範：浮体式垂直軸型水車の波強制力を与える回転影響に関する実験的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第25号、2017A-GS3-8、pp.477-480、2017.11
- ◆ 海保鉦大・惠藤浩朗・宮本卓次郎・居駒知樹・増田光一・敷田曜：深海を活用した水素生産・貯蔵浮体システムの提案と経済性に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集 第25号、2017A-GS5-15、pp.713-716、2017.11
- ◆ 松岡晃弘・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗：津波漂流物の衝突による構造物の変形に関する研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.733-734、2017.12
- ◆ 岩松幸花・居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一・二瓶泰範：浮体式垂直軸型水車の回転影響を与える波強制力に関する実験的研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.735-736、2017.12
- ◆ 離島港湾における荒天時に非接岸係留された船舶の安全性に関する基礎的研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.737-738、2017.12
- ◆ 居駒知樹・大村奏・木原一禎・中村允：浮体式垂直軸型可変ピッチ翼水車の開発、第7回超異分野学会ポスターセッション、2018.3

## 教員研究業績 研究室活動業績

### —— 学外活動（講演・講師等） ——

- ◆居駒知樹：神奈川・藤沢、日本大学生物資源科学部市民講座、「波のちからで発電」、2017.6.10
- ◆居駒知樹：第1回マリンテックグランプリ、ファイナリスト、リバネス、「可変ピッチ垂直軸型潮流・海流発電用水車の研究」、2017.9.30
- ◆居駒知樹：東京・品川、FLOW-3D Asia Users Conference 2017、ユーザー事例として発表、2017.10

### —— 学外活動 ——

#### [居駒知樹]

- ◆東京大学生産技術研究所 第2部 林研究室 リサーチフェロー
- ◆東京大学大学院新領域創成科学研究科海洋技術環境専攻 非常勤講師
- ◆一般社団法人海洋エネルギー資源利用推進機構 理事（学術担当）
- ◆特定非営利法人 日本海洋工学会 理事
- ◆特定非営利法人 日本海洋工学会 運営委員
- ◆日本建築学会海洋建築委員会 本委員会委員・幹事
- ◆日本建築学会海洋建築委員会 海洋建築企画小委員会 委員
- ◆日本建築学会海洋建築委員会 海洋建築計画小委員会 委員
- ◆日本建築学会 奨励賞選考委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会 研究企画委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会 海洋工学・海洋環境分野研究企画部会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会 海洋工学研究会 会長
- ◆日本船舶海洋工学会 海洋環境研究会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会 波力発電における水槽試験での模型縮尺影響研究委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会 海底・海底下資源開発ストラテジー研究委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会 海洋教育推進委員会 運営委員
- ◆日本沿岸域学会 企画運営委員会 副委員長
- ◆土木学会 会員
- ◆米国機会学会（ASME） 会員
- ◆海洋工学懇談会 幹事
- ◆第27回海洋工学シンポジウム実行委員（日本船舶海洋工学会・日本海洋工学会）
- ◆PACON International (Board of Director)
- ◆IEC TC114（海洋エネルギー）国内委員会 委員
- ◆IEC TC114 PT103（波力発電機型実験ガイドライン作成）委員
- ◆OMAE 2018 Symposium Organizer of OSU
- ◆OMAE 2017 Symposium Co-organizer of OSU
- ◆Oceans / Techno-Ocean 2018 実行委員、Technical Program Committee Co-Chair
- ◆RENEW 2018 International Scientific Committee Member
- ◆Grand Renewable Energy 2018 分科会8（海洋エネルギー）Co-Reader

#### [惠藤浩朗]

- ◆東京大学生産技術研究所 第2部 林研究室 リサーチフェロー
- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築企画小委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築計画小委員会 幹事
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会・構造部会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・東部支部編集委員会 委員
- ◆私立大学キャンパスシステム研究会・第一分科会 運営委員長
- ◆私立大学キャンパスシステム研究会・メディアコミュニケーション局 運営委員長

#### [増田光一]

- ◆日本建築学会・海洋建築委員会本委員会 幹事
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築企画小委員会 委員
- ◆日本海洋工学会 理事
- ◆日本海洋工学会 運営委員
- ◆テクノオーシャンネットワーク 理事
- ◆PACON International (Bord of Director)
- ◆海洋工学懇談会 幹事
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会 幹事
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会 メンバー
- ◆海洋エネルギー資源利用推進機構・波浪エネルギー分科会 委員
- ◆東京大学生産技術研究所 研究員
- ◆海流エネルギー活用推進機構 理事長

### —— 海外出張・海外調査 ——

- ◆居駒知樹：OMAE 2018 講演、ノルウェー、2017.6.25-30
- ◆居駒知樹：PACON BOD Meeting、ロシア、2017.10.8-12
- ◆惠藤浩朗：OMAE 2018 講演、ノルウェー、2017.6.25-30
- ◆増田光一：OMAE 2018 講演、ノルウェー、2017.6.25-30
- ◆増田光一：PACON BOD Meeting、ロシア、2017.10.8-12

### —— 研究助成・受託研究 ——

- ◆居駒知樹：一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所：「定置網や養殖海域等における小規模波力発電浮体システムの係留方法と発電性能の最適化および電力利用に関する基礎研究」（研究奨励寄付金）
- ◆居駒知樹：エム・エム・ブリッジ（受託研究費）
- ◆居駒知樹：樹ちばの未来 MICE・IR（受託研究費）
- ◆居駒知樹：オリエンタルコンサルタンツ（受託研究費）
- ◆居駒知樹（・大塚文和・野志保仁）：三井共同建設コンサルタンツ（受託研究費）
- ◆増田光一：JSPS 科学研究費補助金 基礎研究（C）、「津波による漂流物が建築物に与える衝撃荷重特性と被災規模の定量的評価」、（H28-H30年度）

## 大塚研究室

### —— 審査付論文 ——

- ◆大塚文和・中本社祐・吉田誠裕・川西利昌・増田光一：真間川河口前面海域及び三番瀬における放射性物質について、土木学会論文集 B3（海洋開発）、73巻、2017.6.

### —— 口頭発表・ポスター発表 ——

- ◆大塚文和・山口兼右・吉田誠裕・川西利昌：江戸川における放射性セシウムの流量と近似式について、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集 No.30、2017.7.
- ◆橋本宗侍・大塚文和・吉田誠裕・川西利昌：真間川河口前面海域における放射性セシウムの堆積分布について、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集 No.30、2017.7.
- ◆橋本宗侍・大塚文和・川西利昌：船橋三番瀬海浜公園における放射線量について、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、2017.12.
- ◆山口兼右・大塚文和・川西利昌：東京湾における生態系ネットワークに関する

基礎的研究、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、2017.12.

- ◆佐竹康平・大塚文和・川西利昌：葛西臨海公園西なぎさ海浜における放射線量の観測と特性解析、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、2017.12.

### —— 学外活動 ——

- ◆日本沿岸域学会：論文委員会 委員
- ◆海洋調査技術学会・企画委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会海洋建築計画小委員会 委員
- ◆日本建築学会：論文編集委員会 委員

### —— 研究助成・受託研究 ——

- ◆科学研究費助成基金助成金、研究課題「東京湾奥部における放射性物質の動態およびその長期的予測に関する研究」（基礎研究 C）

## 岡本研究室

### 審査付論文

- ◆岡本強一・小森谷友絵・遠山岳史：EFFECT OF ADDITION OF BACTERIA ON THE DEVELOPMENT ON MOST SUITABLE REMOVAL METHOD OF RADIOACTIVE CESIUM ADSORBED ON OCEAN SLUDGE BY USING FINE BUBBLE AND ACTIVATING MICROORGANISMS, Proceedings of the ASME 2017 36th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2017, OMAE2017-62581, 2017.6.
- ◆岡本強一・小森谷友絵・遠山岳史：COMPARISON OF PURIFICATION PERFORMANCE AGAINST OCEAN SLUDGE IN TWO SEA-AREA BY USING PURIFICATION SYSTEM OF CIRCULATION TYPE, 6th International Conference on Civil Engineering (6th ICCE 2017), Aug.30, 2017.
- ◆小森谷友絵・岡本強一・遠山岳史：REMOVAL OF RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE BY THE BACTERIUM USING PURIFICATION SYSTEM OF CIRCULATION TYPE, International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment (GEOMTE 2017), Mie, Japan, Nov. 21-23, 2017.

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆岡本強一・遠山岳史・森谷友絵：循環型浄化システムを用いた堆積汚泥に吸着した放射性セシウムの除染、環境放射能除染学会第6回研究発表会、2017.7.
- ◆中村隆浩・岡本強一：循環型浄化システムを用いた微生物活性剤の適用による浄化性能の比較、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.711-712、2017.12.

- ◆Ogawa Ma.Richie C.・立石翔太郎・岡本強一・Teodinis Garcia・Melito Baccay・Marjun Macasilhig・Benedicto Fortaleza・Reynaldo Baarde：Purification Performance of Sludge in Manila Bay by Purification System of Circulation Type, 第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.713-714、2017.12.

### 学外活動

- ◆(株)日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会 委員
- ◆NPO 海の森づくり推進協会 理事
- ◆東京大学・生産技術研究所 協力研究員

### 海外出張・海外調査

- ◆フィリピン工科大学にて特別講義「水資源工学セミナー」を実施、学生約120人が参加、盛況であった。2017年9月14日
- ◆覚書校（フィリピン工科大学）への派遣による研究課題の実施、研究課題「複数生態系海域における循環型浄化システムの性能評価」、マニラ湾の水質浄化を実施、2017年8月8日から8月25日
- ◆フィリピン工科大学との共同研究課題の実施、共同研究課題「バッシングリバーにおける循環型浄化システムを用いた浄化実験」を行う為、（1回目）2017年9月11日から9月20日、（2回目）2017年11月5日（日）から11月12日（日）、（3回目）2018年1月21日（日）から2月4日（日）

### 研究助成・受託研究

- ◆岡本強一：科学技術研究費、基盤研究（C）、「堆積汚泥に吸着した放射性セシウムの減容化を考慮した効率的除去システムの開発」、(17K06969)

## 小林・野志研究室

### 審査付論文

- ◆Ishikawa, T., Uda, T., Serizawa, M., Okamoto, M., Noshi, Y. and Miyahara, S. : Reductions in berm height and foreshore slope due to seaward flow originated from filtration on gravel beach, Coastal Dynamics 2017, Paper No.102, pp.237-248, 2017.5.
- ◆Noshi, Y., Kobayashi, A., Uda, T. and Hashimoto, Y. : Formation of sharp break in slope between foreshore and low-tide terrace and longshore change in height of sharp break, Coastal Dynamics 2017, Paper No.104, pp.1177-1187, 2017.5.
- ◆西村和真・小林昭男・宇多高明・野志保仁：埋立護岸背後での越波増大と背後地盤の陥没 - 館山湾に面した見物海岸の事例 -, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.73, No.2, pp.L84-L89, 2017.7.
- ◆藤野由基・小林昭男・宇多高明・野志保仁：流入小河川の河口部流路が海へ注ぐ場所が岩礁背後に固定される理由 - 千葉県守谷海岸の例 -, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.73, No.2, pp.L510-L515, 2017.7.
- ◆小林昭男・宇多高明・伊達文美・三上康光・野志保仁：人工改変に起因する河口部侵食 - Nha Trang を流れる Cai River 河口の例, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.73, No.2, pp.L534-L539, 2017.7.
- ◆宮田隆平・小林昭男・野志保仁・宇多高明：礫養浜と突堤による検見川浜の緩傾斜護岸の親水機能の向上, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.73, No.2, pp.L582-L587, 2017.7.
- ◆村田昌樹・小林昭男・宇多高明・野志保仁：突堤形状を変えた場合の沿岸漂砂阻止効果の違い - BG モデルによる検討, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.73, No.2, pp.L606-L611, 2017.7.
- ◆橋本佳樹・小林昭男・宇多高明・野志保仁：波の作用下での同一粒径の礫と人工礫の挙動の比較, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol. 73, No.2, pp.L678-L683, 2017.7.
- ◆Kobayashi, A., Uda, T. and Noshi, Y. : Erosion of Cai River Mouth in Nha Trang, Vietnam, ASIAN AND PACIFIC COASTS 2017, Vol. 9, pp.548-559, 2017.10.
- ◆Noshi, Y., Uda, T. and Kobayashi, A. : Topographic Changes Around

Co May River Mouth Located in Vung Tau, Vietnam, ASIAN AND PACIFIC COASTS 2017, Vol. 9, pp.560-571, 2017.10.

- ◆Yokota, T., Kobayashi, A., Uda, T., Serizawa, M., Katsuki, A. and Noshi, Y. : Model for Predicting Formation of Blowout on Coastal Sand Dune Using Cellular Automaton Method, ASIAN AND PACIFIC COASTS 2017, Vol.9, pp.572-582, 2017.10.
- ◆宇多高明・野志保仁・石川仁憲・鈴木 悟・岡本光永：バーム背後の放水路からの浸透流によるバームの消失実験、土木学会論文集 B2 (海岸工学)、Vol.73, No.2, pp.L571-L576, 2017.11.
- ◆横田拓也・小林昭男・宇多高明・芹沢真澄・勝木厚成・野志保仁：セルオートマトン法による海岸砂丘での blowout の形成予測、土木学会論文集 B2 (海岸工学)、Vol.73, No.2, pp.L583-L588, 2017.11.
- ◆村田昌樹・小林昭男・宇多高明・野志保仁：2 粒径系海浜において突堤形状を変えた場合の沿岸漂砂阻止効果の違い、土木学会論文集 B2 (海岸工学)、Vol.73, No.2, pp.L793-L798, 2017.11.
- ◆三上康光・小林昭男・宇多高明・野志保仁：干潟縁辺部海浜での汀線変化に追隨した植生帯外縁線の変化予測、土木学会論文集 B2 (海岸工学)、Vol.73, No.2, pp.L811-L816, 2017.11.

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆篠原麻葉・小林昭男・宇多高明・橋本佳樹・野志保仁：護岸前面における植生育限界 - 鵜原海岸での観察、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集、No.30 (PDF)、セッション 15-2、2017.7.
- ◆原 大輔・小林昭男・宇多高明・野志保仁：海浜変形が利便施設の維持管理に与えた影響 - 勝浦湾沿岸の例、日本沿岸域学会研究討論会 2017 講演概要集、No.30 (PDF)、セッション 16-4、2017.7.
- ◆Akio Kobayashi, Hee-Do Ahn, Ogawa Maria Richie Caibal : Beach Erosions Triggered by Construction of Port Breakwater on the East Coast of Korea, 6th International Conference on Civil Engineering, Technology University of the Philippines, pp.1-1, 2017.7.
- ◆目野玄也・小林昭男・野志保仁：一宮海岸における養浜効果の検証に関する



## 教員研究業績 研究室活動業績

研究、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.719-720、2017.12.

- ◆村田昌樹・小林昭男・宇多高明・野志保仁：2粒径海浜において突堤形状を変えた場合の沿岸漂砂阻止効果の違い、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.723-724、2017.12.
- ◆横田拓也・小林昭男・宇多高明・芹沢真澄・勝木厚成・野志保仁：セルオートマトン法による海岸砂丘でのblowoutの形成予測、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.725-726、2017.12.
- ◆橋本佳樹・小林昭男・宇多高明・野志保仁：波の作用下での比重の異なる養浜材料の挙動の比較、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.727-728、2017.12.
- ◆渡部末樹久・小林昭男・宇多高明・野志保仁：養老川水系高滝ダムにおける堆砂の養浜材としての活用、第61回日本大学理工学部学術講演会予稿集 海洋建築部会、pp.729-730、2017.12.

### 著書・執筆等

- ◆小林昭男：海洋空間を拓くーメカフロントから海上都市へー、分担執筆、第1章 P.1-33、成山堂書店、共著者：畔柳昭雄、増田光一、居駒知樹、惠藤浩明、佐藤千秋、2017.3.

### 学外活動

- ◆小林昭男：神奈川県港湾審議会 委員
- ◆小林昭男：市原市建築審査会 委員
- ◆小林昭男：日本沿岸域学会 理事
- ◆小林昭男：日本海洋工学会 理事・運営委員会委員

- ◆小林昭男：土木学会海洋開発論文集査読小委員会 委員
- ◆小林昭男：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆野志保仁：土木学会海洋開発委員会 幹事
- ◆野志保仁：土木学会海洋開発論文集査読小委員会 幹事

### 海外出張・海外調査

- ◆小林昭男：セブ工科大学との学術交流と現地調査、フィリピン・セブ（セブ工科大学）、2017年7月27日～7月30日
- ◆小林昭男：第6回土木工学国際会議（ICCE）、フィリピン・マニラ（フィリピン工科大学）、2017年8月28日～8月31日
- ◆小林昭男・野志保仁・横田拓也：第9回アジア太平洋の海岸に関する国際会議、フィリピン・マニラ、2017年10月18日～22日
- ◆小林昭男：第3回河口海岸大陸棚に関する国際学会（ベトナム天然資源環境大学）、ベトナム・ホーチミン、2017年11月6日～11月8日
- ◆野志保仁・村田昌樹：第3回河口海岸大陸棚に関する国際学会および現地踏査、ベトナム・ホーチミン・ファンティエット、2017年11月6日～11月11日
- ◆小林昭男：海洋建築と海岸環境に関する研究打合せ、韓国・プサン（韓国海洋工科大学）、2018年1月15日～17日

### 研究助成・受託研究

- ◆小林昭男：日本大学理工学部研究所受託研究、放水路河口前面のバーム形成実験
- ◆野志保仁：日本大学理工学部研究所受託研究、等深線変化モデルの開発及び指導

## 主な学生の活躍

### ▶論文受賞

浙江大学（中国）で開催された Pacific Congress on Marine Science & Technology 25th International Conference (PACON2017) において、村田一城君 (D3)（論文内容：作業船の漂流対策）と石橋栄稔君 (M1)（論文内容：港湾計画前後のコンテナ船による漂流被害）が「Best Student Presentation Award」を受賞しました。（受賞日：2017年3月29日）

熊本大学工学部で開催された第30回日本沿岸域学会研究討論会において、渋谷省吾君 (M2)（論文内容：OWC型波力発電装置による消波ケーソンの利用の可能性）と石橋榮念君 (M2)（論文内容：港湾における海域津波ハザードマップの開発）が「日本沿岸域学会研究討論会優秀講演賞」を受賞しました。（受賞日：2017年7月22日）

### ▶コンペ受賞

教育機関（大学等）で取り組んだ設計課題作品を対象に実施するコンテスト「2017 建築新人戦」において3年生の服部立君 (B3) が全国ベスト16に輝きました。3年生課題の「海の駅」での受賞です。海の駅の機能に留まらず、環境配慮型の建築を提案している点が高く評価されました。

第29回千葉県建築学生賞において、蒲生良輔 (B4)（佐藤研）が奨励賞・市民賞を受賞しました。自身の卒業制作「結い留める水田」を出展し、建築家の審査委員のみならず市民の方々から幅広く評価を得ることが出来ました。

株式会社新建築社が主催する「都市のパブリックスペースデザインコンペ2017」において、永富快 (B4)・山本雄太郎 (B4)・上田紗矢香 (B4)（佐藤研）、志萱侑大 (M2)・金井亮祐 (B3)（佐藤研）の2チームが佳作を受賞しました。タイトル「記憶の遺場所」「建て替えによる、全面接道都市」でそれぞれ出展し一次審査を勝ち抜き上位10作品に選ばれました。昨年3月に行われた最終審査において、プレゼンテーションを行い、建築家西沢立衛審査委員長をはじめ高い評価を頂きました。

2017年度日本建築学会設計競技「地域の素材から立ち現れる建築」において、赤堀厚史 (B4)（佐藤研）、加藤結衣 (B4)・佐藤未来 (B4)・中村圭祐 (B4)（小林研）のグループが佳作及びタジマ奨励賞を受賞しました。昨年8月に広島県で行われた建築学会大会において作品タイトル「瓦礫の遺言」で出展、一次審査を勝ち抜き、プレゼンテーションを行い、審査委員の方々から高い評価を得ました。

今後の大いなる活躍が期待されます。

平成  
29  
年度

## 卒業生の就職状況

学科就職担当 福井剛・山本和清

## 1. 全体状況

本年度（2018年2月28日現在）の就職希望者の就職内定率は学部、大学院ともに3年連続100%となりました。オリンピック後の景気に対する不透明さもさやかれてはいますが引き続き好調です（表1）。背後には建設業界の慢性的な人手不足があり、今後もしばらくはこの傾向が続きそうな雰囲気です。就職活動にあたっては、学科が積極的なサポートを行っています。一人でも多くの学生が希望する企業への就職内定を勝ち取るよう働きかけています。

## 2. 業種別就職状況

本学科における就職先は、建設業（ゼネコン）が最も多く62名（56%）を占めているほか、設計事務所・コンサルタント19名（17%）、住宅・不動産8名（7%）であり、全体の80%を占めています。また、これらのなかで、海洋・コンサルタント業12名（11%）への就職先がみられるのも本学科の特徴です。主要な内定先企業（表2）をみると、いずれも業界屈指の大手企業に一定数が就職していることが分かります。

## 3. 次年度の就職活動に向けて

就活の解禁は3月1日です。企業へのエントリーはこの日より受付が始まります。これと並行して、一部の会社は早期人材確保に向けた動きをしています。大手組織設計事務所や大手ゼネコンはこの傾向が強いので注意が必要です。以下に年間スケジュールの一例を示します。

早期に採用活動をする企業は、1月以降の冬期インターンシップや現場見学会においてリクレーターによる面談が行われて学生の選別が進められます。実質的な面接と言えます。3月の企業説明会解禁を待たずに内々定を出す企業もあります。

一般的な企業は少しスケジュールが遅れますが、1月のインターンシップに参加するためには、12月中には就職の方向性（職種・企業規模等）を決めておく必要があります。各社のスケジュールが重複するためそれほど多くのインターンシップに参加できないためです。インターンシップは就活の必須条件ではありませんが、学生は企業と仕事内容を知る、企業は学生と巡り会う機会として双方のメリットがあるので今後も活発に行われると考えられます。

学科では3回の就職ガイダンスを予定しているので必ず参加して下さい。就活スケジュールや学内ルールなどの重要な情報を伝えます。併せて学部や学科が主催する就職セミナーに積極的に参加し、企業と職種、自分の適性についての認識をしっかり持ちましょう。

夏期インターンシップは気になる業種の最低1つには参加しましょう。意識も大きく変わるはずですが、夏休みの過ごし方は重要で、SPI対策、専門試験対策、企業研究、履歴書の試作などやるべきことは盛りだくさんです。冒頭では採用の堅調さを述べましたが、採用に至るまでのハードルは決して低くはありません。企業は仮に目標採用数に満たなくとも能力の高い学生だけを採る傾向が強まっています。

今年度の学科の就職指導は学科就職担当の教員と教室事務（13号館3階）の岡崎さんと倉井さんが担当します。また、図書館1階のキャリア支援センターでは履歴書作成指導や模擬面接を受けることができます。有効に活用して下さい。就職セミナー、インターンシップ、企業説明会、求人に関する情報はmoodleにアップされるのでこまめにチェックするようにしてください。

	【一般的な企業】	【早期に活動する企業例】
4月		
5月		
6月	夏期インターンシップエントリー	夏期インターンシップエントリー
7月		
8月	夏期インターンシップ	夏期インターンシップ
9月	夏期インターンシップ	夏期インターンシップ
10月		
11月		
12月		
1月	冬期インターンシップ	リクレーター面談
2月	冬期インターンシップ	企業面談・内々定
3月	企業説明会解禁 エントリー開始	SPI適性検査
4月	SPI適性検査	
5月	SPI適性検査	
6月	採用選考解禁・面接・内定	内定
7月		

表1 就職・進学状況(学部・大学院)

	学部			大学院			学部・院 合計	学部・院合計	
	男子	女子	男女合計	男子	女子	男女合計		28年度	27年度
学生数(人)	104	31	135	19	4	23	158	153	137
就職希望者(人)	64	25	89	18	4	22	111	110	102
内定	64	25	89	18	4	22	111	110	102
未定	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内定率(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
大学院進学(人)	35	6	41	0	0	0	41	35	27
本学	33	6	39	0	0	0	39	33	25
他大学	2	0	2	0	0	0	2	2	2
その他(人)	5	0	5	1	0	1	6	8	8
研究生	0	0	0	1	0	1	1	2	0
留学(希望者含む)	1	0	1	0	0	0	1	0	1
他大学・専門学校	1	0	1	0	0	0	1	3	1
次年度公務員志望	0	0	0	0	0	0	0	0	1
就職の意思のない者	3	0	3	0	0	0	3	3	5

表2 主要内定企業一覧

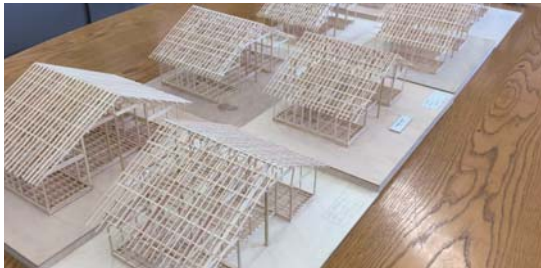
業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院
建設業	鹿島建設	2	-	建設業	平成建設	1	-	事務設計	梓設計	-	1
	大林組	1	-		りんかい日産建設	1	-		構造計画プラス・ワン	1	-
	清水建設	1	-		ナカノフドー建設	1	-		三井造船	-	1
	大成建設	2	-		東鉄工業	1	-		サンユウシビルエンジニアリング	2	1
	戸田建設	4	-		JFEエンジニアリング	-	1		日本工営	-	1
	五洋建設	2	1		大東建託	3	-		国際航業	-	1
	フジタ	1	2		大京穴吹建設	2	-		日本エンジニアリング	-	2
	東亜建設工業	2	-		スターツCAM	1	-		日本港湾コンサルタント	-	1
	前田建設工業	1	-		レオパレス21	1	-		大日本コンサルタント	1	-
	東急建設	1	-		大和ハウス工業	4	2		社会安全研究所	-	1
	オリエンタル白石	2	-	積水ハウス	1	-	オオバ	1	-		
	富士ビー・エス	2	-	ミサワホーム	1	-	経済産業省	-	1		
	ピーエス三菱	-	1	オープンハウスD.	3	-	国交省関東地方整備局	-	1		
	鉄建建設	1	-	アパホテル	1	-	千葉県庁	1	-		
	若築建設	1	-	東京電力HD	-	1	東京都教育委員会	1	-		
	安藤ハザマ	1	-	日本 ERI	-	1	首都圏不燃建築公社	-	1		
	不動テトラ	1	-	ゆうちょ銀行	1	-					



## 平成 29 年度・海洋建築工学科の主な取り組み・活躍

### ●二年生設計製図「デザイン演習Ⅰ」にて前川國男邸の構造模型を制作！（5月）

新たな試みとして、二年生の設計製図課題として前川國男邸の構造模型のグループ制作を行いました。構造模型制作を通して、図面から空間を読み取るだけでなく、空間を支える構造形式を理解できるようになることを目指しています。



### ●新入生オリエンテーションとして東京湾臨海部クルーズを実施！（5月）

毎年恒例行事の新入生オリエンテーション・東京湾臨海部クルーズを実施しました。浅草を出発し、東京スカイツリーや大川端リバーシティ 21、羽田空港 D 滑走路、お台場海浜公園など、普段はあまり見ることのできない海洋建築特有の景色を楽しみました。



### ●海洋建築に関する業界・業種を徹底的に調査・発表！（6月）

二年生科目「ゼミナール及びキャリアデザインⅠ」の一環として、海洋建築工学科に関わる業界・業種のグループ調査に基づくポスター発表会が実施されました。建設業や造船業、コンサルタント業など、各種業界を徹底的に調べた意欲的な発表が行われました。



### ●駿河台入試フォーラムにおいて 400 名以上が来場！（7月）

駿河台キャンパスで入試フォーラムが開催され、海洋建築工学科ブースに 400 名以上の高校生が来場しました。また、寺口助手による「海の資源開発と海上生活」に関するミニ講義が行われ、立見席が出るほどの大盛況でした。



### ●海と建築・ポスター発表会を開催！（7月）

一年生科目「海と建築」の一環として、グループワークによるポスター発表会が開催されました。「海洋建築だからこそできるより良い未来」をテーマに、各グループで約一ヶ月練ってきた渾身の提案を、学科の教員や先輩方に発表しました。



### ●フィリピン・セブ工科大学と学術及び文化交流に関する覚書を締結！（7月）

フィリピン・セブ工科大学と学科間の学術及び文化交流に関する覚書を締結し、セブ工科大学にて調印式が行われました。今度はセブ工科大学との研究協力や学生間交流を継続的に実施していきます。



### ●船橋オープンキャンパスにおいて2,000人以上が来場！（8月）

船橋キャンパスでオープンキャンパスが開催され、海洋建築工学科ブースに2,000名以上の高校生が来場しました。学科ブースでは、大手建設業の清水建設や大林組の方々にご参加いただき、海をフィールドとした都市構想に関してご説明いただきました。また、佐藤専任講師による「世界の水族館デザインについて」と題したミニ講義が行われました。



### ●学科OBOGによる「カイケンJOBスクール」を開催！（1・2月）

海洋建築工学科のOBOGによる「カイケンJOBスクール」が開催されました。今年度は30社にご参加いただき、

各企業で活躍する先輩方が海洋建築での経験を活かし、どのように活躍されているのかを実際にお話いただきました。

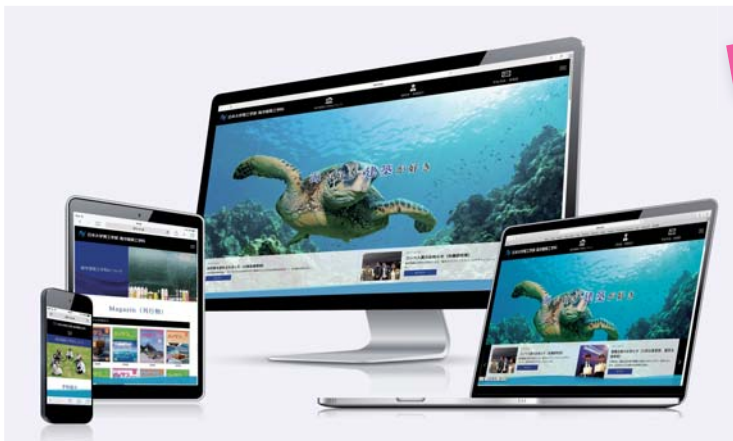
### ●卒業研究発表会を開催！（2月）

卒業研究発表会が開催され、各研究室の代表者が一年間の集大成である卒業研究・設計を教員や学生に対して発表しました。



### ●修士論文審査会を開催！（2月）

修士論文審査会が開催され、大学院二年間の集大成として、大学院生による修士論文・設計のプレゼンテーションが行われました。



## ホームページを リニューアルしました！

2018年度から海洋建築工学科のホームページをリニューアルしました。ホームページデザインが一新され、従来までの海洋建築工学科の紹介や研究室・教員紹介、学科ブログだけでなく、学科フェイスブックやインスタグラムなどの海洋建築工学科の最新情報も掲載されるようになります。また、スマートフォンやタブレットなど、身近なデバイスでもホームページが見やすくなりましたので、是非、チェックしてみてください！

学生のみなさんも  
フォローしてくださいね！



Website



Facebook



instagram

# 海と建築

vol. 15

**東** 京隅田川に架かる中央大橋、この橋にはかつてのフランス大統領 J・シラク氏がセーヌ川と隅田川の友好河川締結式に訪れました。隅田川には「隅田川はセーヌ川に通じる……」と記され、セーヌ川との関係性は深い河川です。しかしながら、セーヌ川程の魅力があるかという点にもよりますが若干躊躇を覚えます。セーヌ川は夏季になるとバカンスに行けないパリ市民のために“プラージュ（海浜）”と呼ばれる人工海浜が登場し、年々人気が高まっています。

一方、水域に目を移しますと、川面の両岸には様々な機能を持った船やバージ、ポンツーンが浮かべられていることに気がつかされます。例えば、以前このページでも紹介した建築家ル・コルビジエによる浮かぶ収容施

設「アジュール・フロタタン」がありますが、それ以外にも「Floatel」と呼ばれるホテルや、夏季シーズンだけ開業されるアルコール障害の患者収容施設やバーラウンジ、レストランがあります。これらは河川に単に浮かべられているだけではなく、背後地区との密接な関係性により河川に設置されています。

**最** 近では、新たにホテルが設置されましたが、陸域に建設するよりも「建設コストは安く、建設期間も短くできた」とオーナーは語っていました。また、浮かぶ公園も最近オープンしました。こちらはパリ市内では見られない水辺の植物が繁茂し、カモなどの飛来が可能なビオトープもつくられた5基のポンツーンで構成されています。

**わ** が国では河川空間利用に関する関心も高まっていますが、河川と背後地の関係性がより深まるように水辺を都市空間に組み込んでゆくことが大切なことと思われます。  
(特任教授・畔柳昭雄)



浮体式の公園



浮体式レストラン



浮体式のホテル



## 教員異動

就任：相田康洋 先生（4月より助教として新規採用）

再任：助教 野志保仁 先生

昇格：准教授 大塚文和 先生（4月より教授）

昇格：准教授 岡本強一 先生（4月より教授）

昇格：准教授 福井 剛 先生（4月より教授）

退任：教授 畔柳昭雄 先生（4月より特任教授）

退任：特任教授 中西三和 先生（4月より非常勤講師）

退任：特任教授 登川幸生 先生（4月より非常勤講師）

退任：客員教授 前田久明 先生

# 海建

## カイケンマガジン No.107

発行者／北嶋圭二 発行日／平成30年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1  
日本大学理工学部海洋建築工学科教室  
Tel：047-469-5420（事務室）  
Fax：047-467-9446

編集委員：恵藤浩明、山本和清、野志保仁、菅原遼  
<http://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>  
デザイン制作 — QB System Co.,LTD.